平成 21 年度
地域別研修「南米地域特別支援教育」
在外補完研修報告書

平成 22 年 9 月
(2010 年)

独立行政法人国際協力機構（JICA）
筑波国際センター

筑波セ
JR
10-002

序　　文

独立行政法人国際協力機構（以下、「JICA」）は、「人」を通じた技術協力のひとつとして、研修員受入事業を実施しています。研修員受入事業は、途上国から、国づくりの担い手となる研修員を我が国または途上国に受入れ、行政、農林水産、鉱工業、エネルギー、環境、防災、保健・医療、運輸、通信、教育等多岐にわたる分野で、専門的知識や技術を移転することにより人材育成支援を図ることを目的とした事業であり、年間3万人を超える研修員を受入れています。

JICA 筑波国際センター（以下、「JICA 筑波」）では、農業分野と教育分野を中心とした研修員受入事業を実施しており、平成21年度に実施した研修コースのひとつに「南米地域特別支援教育」コースがあります。本コースは、平成18年度から平成20年度にかけて実施した「南米地域障害児教育」コースを前身としており、平成21年度は、日本での研修後、平成21年10月11日から10月19日まで、JICA 筑波研修業務・市民参加協力課長佐藤和明を団長とした調査団を派遣し、「平成21年度地域別研修南米地域特別支援教育チリ在外補完研修」（以下、「チリ在外補完研修」）を実施しました。この研修では、前身コースの対象国の中で優良事例を有しているチリを訪れ、本邦研修で日本の現状や知識・技術を学んだ南米３カ国の研修員の理解を深めさせ、より現実的かつ具体的なアクションプランの作成を行わせることを目的としたものです。

本報告書は、チリにおける在外補完研修の実施内容、成果、提言・教訓をとりまとめたものです。本報告書が、今後、他の在外補完研修を実施していくうえでの参考になれば幸いです。

最後に、本在外補完研修の実施にあたり多大なるご協力とご支援をいただいた内外の関係者の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

平成22年9月
独立行政法人国際協力機構
筑波国際センター
所長　佐藤武明

Easter Island and
Isla Sala y Gomez
are not shown.
PERU
Rio
Lauca
BOLIVIA
Arica
Iquique
ATACAMA DESERT
ANDES
PARA.
Antofagasta
Isla San
Félix
Isla San
Ambrosio
Nevado Ojos
del Salado
Huasco
Coquimbo
SOUTH
PACIFIC
OC
サンティアゴ
ANTIAGO
Rancagua
San Vicente
ARCHIPIÉLAGO JUAN
FERNÁNDEZ
ARGENTINA
Talcahuano
Concepción
Lebu
Temuco
Puerto
Montt
SOUTH
ATLANTIC
OCEAN
Strait of
Magellan
FALKLAND ISLANDS
(ISLAS MALVINAS)
Administered by U.K.,
claimed by ARGENTINA
Punta Arenas
Beagle Channel
Drake Passage
0
300 km
0
300 mi

サンティアゴ市

1.コンチャリ区

2.レコレタ区

3.インデペンデンシア区

4.セーロナビア区

5.キンタ･ノルマル区

6.ロ･プラド区

7.サンティアゴ区

8.プロビデンシア区

9.ニュニョア区

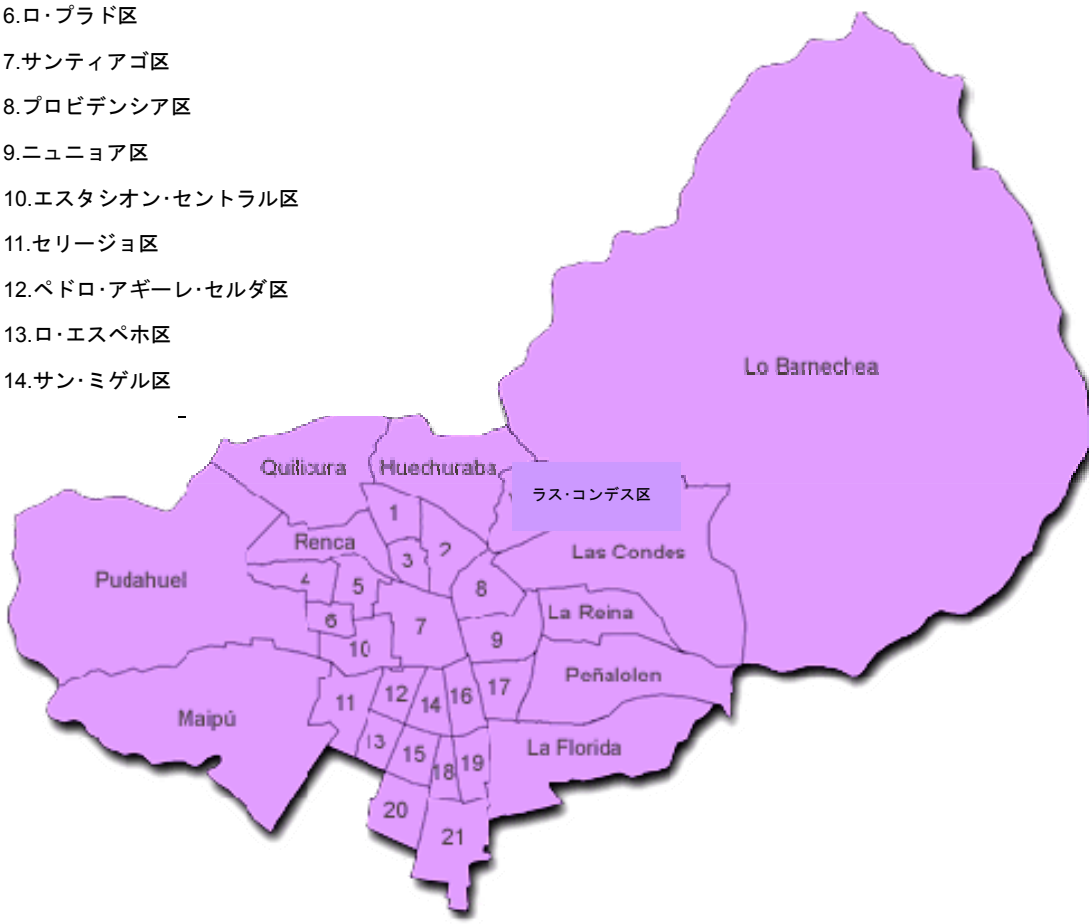
10.エスタシオン･セントラル区

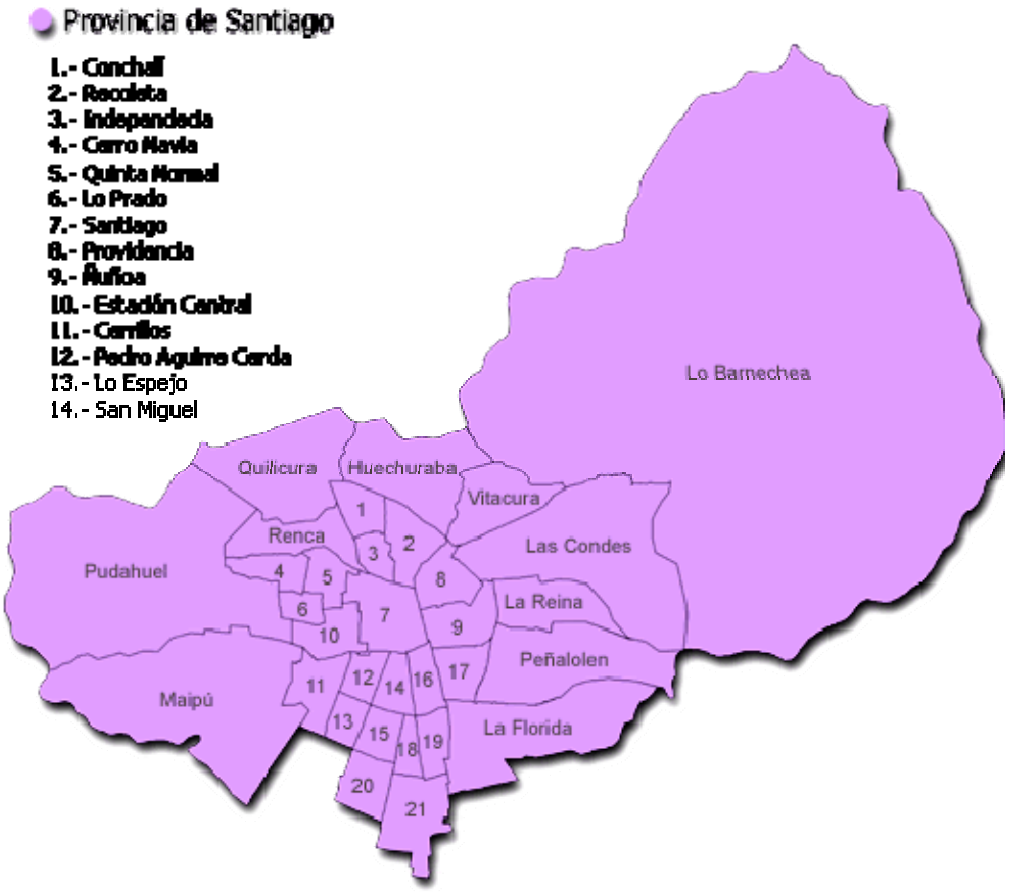
11.セリージョ区

12.ペドロ･アギーレ･セルダ区

13.ロ･エスペホ区

14.サン･ミゲル区




Provincia de Santiago
1.- Conchalí
2.- Recoleta
3.- Independencia
4.- Cerro Navia
5.- Quinta Normal
6.- Lo Prado
7.- Santiago
8.- Providencia
9.- Ñuñoa
10.- Estadón Central
11.- Cerrillos
12.- Pedro Aguirre Cerda
13.- Lo Espejo
14.- San Miguel
Lo Barnechea
Quilicura
Huechuraba
Vitacura
Renca
Las Condes
Pudahuel
La Reina
Peñalolen
Maipú
La Florida
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21

首都圈州

Quinta Región
Sexta Región
Océano Pacífico
Argentina
71°
70°
33°
34°
Tiltil
Colina
Lampa
Curacaví
Maipú
Santiago
María Pinto
Puente Alto
Pirque
San José de Maipo
Talagante
Melipilla
Lonquén
Buin
Paine
Farellones
Villa Alhué
Río Mapocho
Río Colorado
Río Maipo
Laguna Negra
Laguna de Aculeo
Cajón del Maipo
C. Plomo 5424 m
C. Tupungato 6570 m
V. Maipo 5246 m
50 0 50 Km
Comunas
1. Tiltil
2. Colina
3. Barnechea
4. San José de Maipo
5. Lampa
6. Curacaví
7. María Pinto
8. Peñaflor
9. Padre Hurtado
10. Calera de Tango
11. San Bernardo
12. Puente Alto
13. Melipilla
14. El Monte
15. Talagante
16. Isla de Maipo
17. Buin
18. Pirque
19. San Pedro
20. Alhué
21. Paine
Panamericana
2 Vías T.T.A
1 Vía T.T.A
Capital Regional
N
Copyright © 2000 Biblioteca del Congreso Nacional de Chile

La Cruz
Llaillay
Los Andes
Quillota
Ruta 60 Ch
Ruta 57Ch
Ruta 60Ch
Limache
Olmue
Cerro de Roble
Villa Alemana
Cerro Vizcacha
RUTA 57 CH
Cerro Juncal
Colina
Cerro Roble Alto
Lampa
Alto de Lipangue
Ruta 68
Curacavi
Cerro Bustamante
Cerro San Francisco
Santiago
Padre Hurtado
Peñaflor
Talagante
Melipilla
El Monte
RUTA 78
Buin
Paine
Volca
Cerro Cantillana
San Francisco de Mostazal

チリ教育省訪問

AlterEgo 特別支援学校訪問

Amapolas 特別支援学校　open class の様子

Amapolas 特別支援学校　研究会の様子

Coanil 財団　教育実習生による open class の様子

Coanil 財団　研究会の様子

チリ帰国研修員によるアクションプラン発表	チリ帰国研修員からアドバイスを受けるボリビア研修員
チリ帰国研修員からアドバイスを受けるパラグアイ研修員	アクションプラン発表（エクアドル）
ネットワーク化についてのディスカッション	アクションプラン発表会後　集合写真

目　　次

序文
現地調査訪問先地図
写真

第 1 章　チリ在外補完研修概要 - 1 -
1-1　背景と目的 - 1 -
1-2　団員構成 - 1 -
1-3　派遣期間及び派遣国名 - 1 -
1-4　在外補完研修の枠組 - 2 -
1-5　日程 - 3 -
第 2 章　各訪問先調査内容 - 4 -
2-1　日本大使館表敬訪問 - 4 -
2-2　チリ教育省における特別支援教育の取組み - 4 -
2-3　チリ国における各特別支援学校の取組み - 5 -
2-4　チリ国における大学の取組み - 7 -
2-5　野村団員及び城戸団員による講義 - 8 -
2-6　チリ帰国研修員アクションプラン発表内容 - 8 -
2-7　平成 21 年度研修員及びチリ帰国研修員との意見交換 - 9 -
2-8　平成 21 年度研修員アクションプラン発表 - 11 -
2-9　チリ、ボリビア、エクアドル、パラグアイの持続的ネットワーク構築 - 14 -
第 3 章　チリ在外補完研修結果概要 - 16 -
3-1　団長所感 - 16 -
3-2　研修目標の達成状況 - 20 -
3-3　チリにおける本邦研修の学びの蓄積・普及内容及びその方法 - 21 -
3-4　チリにおける教育省、大学、特別支援学校の連携 - 22 -
3-5　今年度研修員のアクションプラン内容に対する評価 - 24 -
3-6　チリの 3 年間の蓄積及び変化 - 26 -
第 4 章　提言と教訓 - 28 -
4-1　提言 - 28 -
4-2　教訓 - 29 -

別添資料
1.「南米地域　特別支援教育」本邦研修概要
2.　研修対象国の関係概念図
3.　本邦研修中に作成したアクションプラン（スペイン語）
4.　チリ在外補完研修中に作成したアクションプラン（スペイン語）
5.　アクションプラン進捗発表会 TV 会議議事録及びファイナルレポート（日本語・スペイン語）
6.　野村団員・城戸団員講義資料

第 1 章　チリ在外補完研修[1]概要

1-1　背景と目的

平成 18 年度から平成 20 年度の間、地域別研修「南米地域障害児教育」コースを実施した。平成 18 年度は、中央政府（教育省）における障害児教育を担当している行政官を対象とし、アルゼンチン、ボリビア、ブラジル、チリ、コロンビア、ペルーより各国 2 名を受入れた。平成 19 年度以降は、対象国をボリビア、チリ、ペルーに限定し、各国の受入人数を増加させるとともに、3 年間の研修員が連携する枠組とした。

平成 21 年度から平成 23 年度の 3 年間では、上述の前身案件を基盤とし、対象国をボリビア、エクアドル、パラグアイとして新たに地域別研修「南米地域特別支援教育」コースを開始した。本コースでは、前身案件同様、3 年間の研修員が連携することで案件目標が達成されることを目指している。また、研修対象者として、国または県の特別支援教育担当指導主事または特別支援教育の教育課程を有する大学の教員から 1 名並びに特別支援教育学校の校長または教頭並びに同学校中堅教員各 1 名という 3 名構成とすることで、前身案件で優良事例となったチリの 3 者枠組を踏襲する構成としている。

平成 21 年度は、本コースの初年度であり、今後の 3 年間の研修の方向性が固まる重要な年であることから、本邦研修終了後、前身案件で優良事例を有しているチリを訪れ、日本で得た知識や経験を具体的にどのように活用しているのかを学び、より現実的かつ具体的なアクションプランの作成を行わせることを目的とし、本チリ在外補完研修を設定した。

1-2　団員構成

(1)佐藤和明（JICA 筑波研修業務・市民参加協力課長）（団長）
(2)野村勝彦（筑波大学特別支援教育研究センター教諭）（知的障害分野）
(3)城戸宏則（筑波大学特別支援教育研究センター教諭）（運動障害分野・地域コーディネーター）
(4)甲田小百合（JICA筑波研修業務・市民参加協力課職員）（研修企画）
(5)原田ますみ（JICAチリ支所現地職員）（研修実施支援）
(6)﨑本道子（通訳）

1-3　派遣期間及び派遣国名

平成 21 年 10 月 11 日（土）～平成 21 年 10 月 19 日（月）　チリ（サンティアゴ）

[1] 在外補完研修とは、本邦研修のカリキュラムの一部を第三国で行うもの。派遣国と類似した地理・気候条件、課題を持つ第三国での補完研修を本邦研修に加えることにより、研修効果が飛躍的に増大すると考えられる場合に実施する。（国際協力機構執務要領(PD)第 9-24001 号「在外技術研修業務マニュアル」（平成 20 年 9 月 30 日）2p（内部資料））

1-4　在外補完研修の枠組

研修目標

地域別研修「南米地域　障害児教育」（平成 18 年度～平成 20 年度）の研修対象国であったチリでは、国・大学・特別支援学校が連携し open class[2]を自国で取り入れる等、本邦研修の学びを活かした取組みが行われている。チリにおける特別支援教育の課題及びそれに対する取組みについて把握し、自国や自身の活動との比較を行うことで、帰国後のアクションプラン実施にあたり活用する。

単元目標

(1) チリ帰国研修員の所属組織訪問及びチリ帰国研修員との意見交換等を通じて、チリにおける国・大学・特別支援学校間の特別支援教育の連携のあり方につき、理解が促進される。
(2) チリ帰国研修員の所属組織訪問及びチリ帰国研修員との意見交換等を通じて、チリ帰国研修員の所属組織における本邦研修の学びの蓄積及び普及方法につき、理解が促進される。
(3) チリ帰国研修員との意見交換等を通じて、平成 21 年度研修員のアクションプランの内容が改善される。
(4) チリと平成 21 年度研修参加国の協力関係が構築される。

対象者

平成 21 年度地域別研修「南米地域　特別支援教育」研修員
エクアドル 3 名、パラグアイ 3 名、ボリビア 1 名

[2] open class（現地ではスペイン語で、“clase abierta”という）とは、校内の同僚教員や近隣の学校の教員、教育委員会関係者、保護者等を招いて授業を見てもらい、授業後に研究会を実施することを指す。日本における授業研究あるいは公開授業に近い概念だが、完全には一致しないため、open class という言葉をそのまま用いることとする（以下、同様）。

1-5　日程

平成 21 年度地域別研修「南米地域特別支援教育」

チリ在外補完研修

平成 21 年 10 月 8 日作成

月日	曜日	時間	活動
2009/10/11	日	12:05	サンティアゴ着 （AM9121） ボリビア研修員
2009/10/12	月	6:25	サンティアゴ着 （LA601） パラグアイ研修員
		8:40	サンティアゴ着　　在外補完研修派遣団員
		15:00-17:00	団内会議
2009/10/13	火	6:15	サンティアゴ着（LA1447） エクアドル研修員
		9:00	ホテル発
		9:30-11:30	チリ教育省表敬訪問・教育省における特別支援教育の取り組み（チリ教育省）
		12:00-13:30	AlterEgo 特別支援学校訪問・学校視察（AlterEgo 特別支援学校）
		13:30-14:30	昼食
		15:00-17:00	UCINF 大学訪問・特殊教育学科カリキュラム紹介、大学の授業紹介、早期療法センター見学（UCINF 大学）
		17:15-18:00	大使館表敬*派遣団員のみ*
		18:15-20:00	JICA チリ支所訪問*派遣団員のみ*
2009/10/14	水	8:20	ホテル発
		9:00-11:00	チリ帰国研修員によるアクションプラン実践発表（アマポーラス特別支援学校）
		11:00-14:00	アマポーラス特別支援学校訪問・授業研究（アマポーラス特別支援学校）
		14:00-15:00	昼食
		15:00-16:00	講演会準備（UCINF 大学）
		16:00-19:00	野村先生、城戸先生による講演会（UCINF 大学）
		19:30-20:30	研修員と団内会議（2日間で学んだこと及びチリへの質問整理）（ホテル）
2009/10/15	木	8:20	ホテル発
		9:45-13:00	Coanil 財団訪問・授業研究（Coanil 財団）
		13:30-15:00	昼食
		15:00-16:00	平成 21 年度研修員からチリ帰国研修員に対する質問（UCINF 大学）
		16:00-19:00	平成21年度研修員によるアクションプランの修正作業（チリ帰国研修員及び日本側団員とのディスカッションを含む）（UCINF 大学）
2009/10/16	金	8:30	ホテル発
		9:00-17:00	平成 21 年度研修員によるアクションプランの発表会（UCINF 大学）
		17:10-18:10	南米地域内の特別支援教育の知見・経験蓄積のためのネットワーク化の行動計画立案ディスカッション（UCINF 大学）
		19:00-20:00	修了式（UCINF 大学）
		20:00-20:30	研修員と団内会議（ホテル）
2009/10/17	土		出国

第 2 章　各訪問先調査内容

2-1　日本大使館表敬訪問

(1)日時：平成 21 年 10 月 13 日（火）17：15-18：00
(2)場所：在サンテイアゴ日本大使館
(3)面会者：
　ア．林在チリ大使館特命全権大使
　イ．米田在チリ大使館書記官他 1 名(4)内容
　本調査団の目的、調査内容等に係る説明を行った。あわせ、日本の特別支援教育の特長及び中南米諸国に対する特別支援教育分野に係る支援の経緯を説明するとともに、チリにおける本分野の現状と課題につき、大使館方針の確認及び意見交換を行った。
　林大使より、チリ国内における特別支援教育に対する関心度は低いため、広報を強めていくことで特別支援教育に対する関心は少しずつ高まるのではないかと期待しているとのコメントがあった。

2-2　チリ教育省における特別支援教育の取組み

(1)日時：平成 21 年 10 月 13 日（火）9：30～11：30
(2)場所：チリ教育省
(3)面会者：
　ア．Ms.GODOY LENZ Maria Paulina （平成 18 年度研修員、教育省）
　イ．Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成 20 年度研修員、UCINF 大学教師・教育コーディネーター）
　ウ．Mr.Benilde Vera Clasing（教育省国際協力室、二国間協力担当官）
　エ．Mr.Jorge Figueroa（教育省一般教育局、局長補佐）
　オ．その他教育省職員等
(4)内容：
　チリ教育省における特別支援教育の取組みに係る説明が行われた。主な要点は以下のとおり。
　2006 年～2010 年におけるチリ国教育政策として、重度障害者に対する門戸開放、柔軟性を持った学校カリキュラムの策定、教育システムの改良等が盛り込まれている。<u>重度障害児に対する教育の門戸開放や、障害児の家族や特別支援教育の教員養成課程の重視、特別支援教育の予算拡大など、教育政策の項目の一部は、チリ帰国研修員が参加した日本での本邦研修の成果を土台として作られている。</u>

2-3　チリ国における各特別支援学校の取組み

＜AlterEgo（アルタエゴ）特別支援学校＞
(1)日時：平成21年10月13日（火）12：00～13：30
(2)場所：AlterEgo特別支援学校
(3)面会者：
ア．Ms.BASTIAS ROJEL Jessica Ines（平成20年度研修員、AlterEgo特別支援学校・教育コーディネーター）
イ．Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成20年度研修員、UCINF大学教師・教育コーディネーター）
ウ．その他帰国研修員及び学校関係者等　複数名
(4)内容：
AlterEgo特別支援学校の学校紹介が行われた。主な要点は以下のとおり。
生徒一人ひとりが持っている能力の向上を目指し、生徒の希望や家族の希望も考慮しつつ、医学的視点や普通教育の視点も取り入れながら個別指導計画を作成している。
コミュニケーション能力、家族、普通教育カリキュラムを重視した教育を実践している。
能力別ではなく、年齢や生徒の興味関心に応じたクラス編成を心がけている。
MAYOR大学から一度に14名程度の実習生を受入れている(実習期間は4～5ヶ月間)。
チーム（複数名の教師）による特別支援教育の実施、計画（年間指導計画、月間指導計画、個別指導計画等）に沿った教育、open class の実施等、本邦研修の学びを積極的に取り入れている。

＜Amapolas（アマポラス）特別支援学校＞
(1)日時：平成21年10月14日（水）9：00～14：00
(2)場所：Amapolas特別支援学校
(3)面会者：
ア．Ms.GODOY LENZ Maria Paulina　（平成18年度研修員、教育省）
イ．Ms.BARRERA MARDONES Debora Angelica（平成19年度研修員、教育省）
ウ．Ms.FONTECILLA Gallardo Bernardita（平成19年度研修員、Amapolas特別支援学校校長）
エ．Ms.ARRIAGADA POZO Cecilia Eliana（平成19年度研修員、Amapolas特別支援学校教師）
オ．Mr.PAVEZ ACUNA Gines Alfredo（平成20年度研修員、Coanil財団校長）
カ．Ms.BASTIAS ROJEL Jessica Ines（平成20年度研修員、AlterEgo特別支援学校教育コーディネーター）
キ．Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成20年度研修員、UCINF大学教師・教育コーディネーター）
ク．その他帰国研修員及び学校関係者等　複数名

(4)内容：

チリ教育省・大学・特別支援学校に勤務中の帰国研修員も参加の上、Amapolas 特別支援学校で実際に行われている open class 及び研究会（反省会）を見学し、意見交換を実施した。各関係者からの Amapolas 特別支援学校で行われている open class 及び研究会（反省会）に対するコメントは以下のとおり。

● 佐藤団長：

教育の質の向上のためには、国・大学・特別支援学校それぞれの組織の力が向上し、その 3 者が相互に連携していくことが重要である。今後、チリ国内において、open class がさらに普及し、特別支援教育の質の向上が達成されることが期待される。

● 野村団員：

指導案を作成し、事前に何度も内容を検討した上で授業に臨んでおり、授業の構成がしっかりしているという印象を受けた。

研究会（反省会）の内容が、教師を批判するものではなく授業の中で良かった点を見つけていた。また、「教師」の教え方の質の向上ではなく「生徒」が何を学んだのかに重きが置かれており、同僚性が育まれていることがわかった。

● 城戸団員：

非常に質の高い授業と研究会（反省会）が実施されていた。他方、個々の生徒の目標をどのように達成するのかという視点が不足していると思われる。

教師の提示の仕方等、テーマを絞って open class を実施することも試してほしい。

● 今年度研修員：

open class は、低コストで大きなインパクトを生み出すことが可能であり、実施する側も見学する側も非常に学びが多いと感じた。

チリの特別支援教育について学んだことで、**本邦研修で学んだことを自国で実施するためには、特別な教師が必要なわけではなく、関係者のやる気が最も重要であることが感じ取れ、自国での本邦研修の学びの展開ができそうだと感じた。**

＜Coanil（コアニル）財団＞

(1)日時：平成 21 年 10 月 15 日（木）9：45～13：00

(2)場所：Coanil 財団

(3)面会者：

ア．Ms.GODOY LENZ Maria Paulina （平成 18 年度研修員、教育省）

イ．Mr.PAVEZ ACUNA Gines Alfredo（平成 20 年度研修員、Coanil 財団校長）

ウ．Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成 20 年度研修員、UCINF 大学教師・教育コーディネーター）

エ．その他帰国研修員及び学校関係者等　複数名

(4)内容：

Coanil 財団はチリ全国に展開しており、生活の質改善のため、障害者とその家族を統合、教育、強化していくことを理念として掲げている。

Coanil 財団で実際に行われている open class 及び研究会（反省会）を見学した。各関係者からの Coanil 財団に対するコメントは以下のとおり。

● 佐藤団長：

国、大学、特別支援学校による 3 者連携及び各帰国研修員の所属組織における本邦研修の学び・経験の蓄積・普及が実現している等、日本の研修で得た学びをどのように自国内で活かしているのかを今年度の研修員が学び取る良い機会となった。

● 野村団員：

open class を行う際は、その授業が全体の計画のどこに位置づけられているのか（同様のテーマで計何時間計画し今回がその何時間目なのか）といった点を明確にすると、見学する側の理解度が上がると思われる。

● 城戸団員：

教員の授業中の様子、生徒との関わり、open class の様子はどれも日本のそれと酷似していると感じた。今後、授業を見る側の視点をフォーマットとして確立していくことが重要となると思われる。今後も open class を継続して実施していくことが大切である。

2-4　チリ国における大学の取組み

(1)日時：平成 21 年 10 月 13 日（火）15：00～17：00

(2)場所：UCINF 大学　講堂

(3)面会者：

ア．Ms.BASTIAS ROJEL Jessica Ines（平成 20 年度研修員、AlterEgo 特別支援学校・教育コーディネーター）

イ．Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成 20 年度研修員、UCINF 大学教師・教育コーディネーター）

ウ．その他帰国研修員所属組織等関係者　複数名

(4)内容：

UCINF 大学の活動紹介が行われた。主な要点は以下のとおり。

本邦研修の学びを活かし、open class における plan-do-see のサイクルを活用している。なお、チリでは plan-do-see の後にフォロー/モニタリングを取り入れ、open class の経験を定型化し、国内全体に普及することを考えている。open class の定型化にあたっては、①open class の実施（授業内容に関する説明、学期計画・年間指導計画の説明、学習指導案に関する説明）②研究会（授業に参加した学生の意見も取り入れる）③課題や強みの分析の 3 点が重要と考えている。

なお、学生も open class を実施するようになり、本邦研修で学んだ学習指導案の作成を導入している。

教育省、大学、特別支援学校の 3 者連携を重視して活動を行っている。帰国研修員との連携を円滑に進めるためには、本邦研修前に帰国研修員と打ち合わせを実施することが重要である。なお、チリの経験をふまえると、教育省が音頭をとると連携が実現しやすいのではないかと思われる。

2-5　野村団員及び城戸団員による講義

(1)日時：平成21年10月14日（水）16：00～19：00
(2)場所：UCINF大学　講堂
(3)出席者：約100名（チリ帰国研修員、チリ帰国研修員関係者等）
(4)内容：(詳細は別添6参照)
＜野村団員講義＞
　ア．知的障害児の就労と移行支援について
　イ．同僚性を築く校内研修
　ウ．質疑応答
　質問：重複障害児はどのような職業に就くのか。
　回答：日本では重複障害児が就職するのは非常に難しい。施設の中で一生生活を余儀なくされるケースもあれば、日中のみ働くというケースもある。障害がどんなに多くても重くても、働く機会を与えることが重要。働く機会を奪うことは決して行ってはいけない。
＜城戸団員講義＞
　ア．コミュニケーションエイド利用の基本的な考え方及びコミュニケーションエイドの紹介
　イ．コメント
　チリ帰国研修員：日本の教材の技術が発展していることはもちろんだが、生徒の能力向上を考えて教材が作られている点がすばらしい。どんなに高性能な教材があったとしても、教師が生徒のコミュニケーション能力を向上させようと思っていなければ意味がない。

2-6　チリ帰国研修員アクションプラン発表内容

(1)日時：平成21年10月14日（水）9：00～11：00
(2)場所：Amapolas特別支援学校
(3)面会者：
　ア．Ms.GODOY LENZ Maria Paulina　(平成18年度研修員、教育省)
　イ．Ms.BARRERA MARDONES Debora Angelica（平成19年度研修員、教育省）
　ウ．Ms.FONTECILLA Gallardo Bernardita（平成19年度研修員、Amapolas特別支援学校校長）
　エ．Ms.ARRIAGADA POZO Cecilia Eliana（平成19年度研修員、Amapolas特別支援学校教師）
　オ．Mr.PAVEZ ACUNA Gines Alfredo（平成20年度研修員、Coanil財団校長）
　カ．Ms.BASTIAS ROJEL Jessica Ines（平成20年度研修員、AlterEgo特別支援学校教育コーディネーター）
　キ．Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成20年度研修員、UCINF大学教師・教育コーディ

ネーター)

ク．その他研修員関係者　複数名

(4)内容：

チリ帰国研修員によるアクションプランの実践状況に関する発表が行われた。主な要点は以下のとおり。

3年間の研修員が一つにまとまりアクションプランを実行している。アクションプランの実施にあたっては、下述のようなopen classを活用した国、大学、特別支援学校の連携の仕方が鍵だった。

国（教育省）：国内における open class の展開を目指し、パイロット校に対する支援・指導、大学との連携及び様々な機会を通じたopen classの紹介等を行っている。

大学：パイロット校に対する技術的側面支援、open classに関する研究、open classの普及活動（セミナー開催、出版等）及び特別支援学校への実習生の派遣等を行っている。

特別支援学校：学校内の教員の質の向上及び周囲の学校へのopen classの普及等を行っている。実際にopen classを実施してみて、以下のような成果が上がった。

- open class後の研究会（反省会）で、生徒の学習に対する反応や学びの様子に対するコメントが集中するようになり、自分の担当する生徒がどのような学びを得たのかを客観的に認識することができるようになった。
- 様々な立場の人（同僚、他校教員、父母等）から様々な意見を聞くことで、教員の教授技術が向上した。
- open classを実施した結果を次の授業に活用していく方法を一般化・システム化しようとする動きが出てきた。
- 以前は実施していなかった校内教員ミーティングを月に1度実施するようになった。
- 教師間のコミュニケーションが変化し、一緒に授業を作り上げるようになった。
- 授業の中で達成したい目標にあわせて教材を作成し使用するようになった。
- 授業に対して以前よりやる気が沸くようになった。
- 教師から生徒に一方的に教えるのではなく、生徒が中心となって活動する時間が増えた。

他方、今後のopen classに関する課題としては、明確な授業計画に基づいたopen classの実施、普通教育のカリキュラムに沿った特別支援教育の実施等が挙げられる。

2-7　平成21年度研修員及びチリ帰国研修員との意見交換

(1)日時:平成21年10月15日（木）15：00～19：00

(2)場所:UCINF大学　467号室

(3)面会者:

ア．Ms.ARRIAGADA POZO Cecilia Eliana　（平成19年度研修員、Amapolas特別支援学校教師）

イ．Ms.FONTECILLA Gallardo Bernardita　（平成19年度研修員、Amapolas特別支援学校校長）

ウ. Mr.PAVEZ ACUNA Gines Alfredo（平成 20 年度研修員、Coanil 財団校長）

エ. Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成 20 年度研修員、UCINF 大学教師・教育コーディネーター）

オ. Ms.BASTIAS ROJEL Jessica Ines（平成 20 年度研修員、AlterEgo 特別支援学校教育コーディネーター）

カ. Ms.Yessica Quiroz（Amapolas 特別支援学校教師）

(4)内容

チリ帰国研修員が、本邦研修終了後のアクションプラン実施に係る自らの経験を踏まえ、エクアドル、ボリビア、パラグアイの各グループにアドバイザーとして参加し、これら３カ国の研修員が日本で作成したアクションプランを土台とし、本調査を通じチリで得た情報・知識等をもとに、より実現性の高いアクションプランの作成に向けて改訂作業を共同で行った。

平成 21 年度研修員がチリ帰国研修員に対して行った質疑応答の要点は以下のとおり。

ア. Mr.DUARTE CORONEL Jose Antonio（パラグアイ）

・ パラグアイでは、一般的に教員は他の教員に自分の授業を見られるのを好まない。だが、チリの open class の様子を見て、自分が所属する学校でも open class を導入していきたいと考えている。open class を学校で導入するには、どのような段階を踏む必要があるのか。

→チリの場合は、まず同僚に open class の様子を話し、その後、他の学校や教育省、大学に open class について紹介した。その後、2008 年 5 月に open class を実施した。実習生等を入れて、教室内で活動できる人数を増やした。モデルクラスとして 3 クラスを選択した（1 クラスは帰国研修員（Ms. Cecilia）のクラス。他 2 クラスは自主的に申し出た教師のクラスを選択。）

→教師 1 名、実習生 1 名、助手 1 名という複数名で教える方法は、実施以前は不可能と思っていたが、実施してみたら案外可能ということがわかった。

・ open class を実施するまでにどれくらいの期間がかかったか。

→2008 年 3 月に計画・準備を開始し、5 月末には 1 回目の open class を実施した。

→学校内で教師間の交流を持つという姿勢及び様々な選択肢（分野、レベル別）を持って open class を実施することが重要と考える。同僚と一緒に授業を作ることで、弱み・強みが見えてくる。

→専門家（研究者）と学校現場がかけ離れているからこそ、両者が話し合っていくことが重要。それにより、教師が授業の計画をする上での弱み・強みが見えてくる。

→open class を導入する際、同時に複数の場所で取り入れるのではなく、まずは小規模で試行的に実施してみるとよい。

イ. Ms.GOMEZ LEDESMA Maria Augusta（エクアドル）

・ 平成 18 年度～20 年度の研修員がどのように連携してアクションプランを実施したのか？

→平成 18 年度：日本で特別支援教育の概要を知り、アクションプランの目的を 2 つ（特別支援教育の質の向上・特別支援教育教員の質の向上）に絞り、3 年間の計画を作成した。また、チリの政策に本邦研修の学びを導入した。

平成 19 年度：平成 18 年度に作ったアクションプランをもとに新たなアクションプランを作成した。平成 18 年度・平成 19 年度の研修員の間で活発に交流をした。

平成 20 年度：平成 18 年度・平成 19 年度のアクションプランをふまえて来日した。

→1 年目のアクションプランをもとに毎年アクションプランの内容を積み重ねている。また、国、大学、学校が連携した活動を考え続けている。連携には、教育省のコーディネーション力が非常に重要と考えている。

・ 当初から open class を計画していたのか？

→はじめはまったく open class の実施は考えていなかった。中田教授等による日本での講義及びボリビアでの open class の様子を見て、チリに合わせた open class を実施するようになった。しかし、**open class を実施することが最終目標ではない。目的を達成するために最適な手段が open class であったということである。**

・ 本邦研修をふまえ、大学では何を普及させていったのか？

→open class について紹介するとともに、授業の中で open class と同様のことを実施している。ただし、大学のカリキュラムに正式に取り入れられているわけではない。

・ open class の他に教室で活用している本邦研修の学びにはどのようなものがあるか？

→個別指導計画。個別指導計画の中に、小グループの活動も書き込むようにした。クラス全体が目標に向かって活動するような流れとなった。

2-8　平成 21 年度研修員アクションプラン発表

(1)日時:平成 21 年 10 月 16 日（金）9：00～17：00

(2)場所:UCINF 大学　講義室 467 号室

(3)面会者:

ア．Ms.GODOY LENZ Maria Paulina （平成 18 年度研修員、教育省）

イ．Mr.PAVEZ ACUNA Gines Alfredo（平成 20 年度研修員、Coanil 財団校長）

ウ．Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成 20 年度研修員、UCINF 大学教師・教育コーディネーター）他

(4)内容（チリ在外補完研修中に加筆修正された部分のみ掲載）

ア．エクアドル

チリの実践から open class が「環境機能カリキュラム」の作成と普及に重要な手段となりうることを理解して、カリキュラム作成の前段階として考え方の普及のために open class をアクションプランに組み入れた。

○活動目標：「環境機能カリキュラム」の作成と普及

○活動内容：

（ア）open class の実施

生徒が生活に必要な能力を身につけるため、生徒一人ひとりの能力に合わせた教育を実施するという考え方に基づいた機能的エコロジーカリキュラムの達成に向けて open class を実施する(平成 22 年 6 月頃予定)。具体的手順は以下のとおり。

・　職員に対する研修の実施
　自校だけでなく他校の教師も招き、本邦研修の学びを関係者に伝える。
・　環境機能カリキュラムの職員との共有
　教育省の協力を得て専門家を招き、「環境機能カリキュラム」の考え方の研修を行う。
・　教材作成・改善の実施
　本邦研修で学んだ教材作成ワークショップを活用し、教員のやる気を高め、生徒一人ひとりの能力にあわせた教材を作成することの必要性を理解させる。
・　家族のコミュニケーションツールの重要性の理解促進
・　実施、評価、改善のプロセスのための「環境機能カリキュラム」を導入した open class の実施
　open class 手法の説明・紹介、ツールの開発（研究会に使用するフォーマット等）、評価方法、open class のテーマ決定等を行う。

（イ）個別指導計画の作成

教師は定期的に生徒の報告を作成しているが、今後はこの報告内容を積み重ね、個々の生徒の指導計画を作成し、きちんと授業で活用されるよう改善していく。これも機能的エコロジーカリキュラムを基盤として実施する。

（ウ）家族の参加

（エ）グループ活動・チーム活動の強化

イ．ボリビア

チリの実践から教育実習生を大学の周辺地域の特別支援学校に長期に派遣することの有効性とモデル地域を作ることで全国的に発信できることに気づきアクションプランに組み入れた。また JICA、ボリビア帰国研修員、チリ帰国研修員との連携を強く意識したアクションプランとなった。

〇活動目的：特別支援教育の教員養成

〇活動内容：

（ア）生徒や住民の特別支援教育に対する理解促進（啓発活動）

（イ）特別支援教育の教員研修・教員養成

（ウ）支援ネットワークの形成

周辺にある特別支援学校との連携を築き、学生がその学校で実習を行えるような体制を作っていきたい。また、JICA との協力体制の構築、ボリビア帰国研修員との連携、チリ帰国研修員（UCINF 大学 Mr.Claudio）との意見交換なども重要と考えている。

（エ）教授法改善の戦略の紹介

（オ）特別支援教育教員養成課程の設置準備

帰国研修員と連携した研修ワークショップを実施するとともに、特別支援教育カリキュラムを作成する。

ウ．パラグアイ

個別指導計画の作成、日本で学んだことの普及･啓発、open class の手法を活用すること

を取り入れた。
〇活動目的：教員の質的向上のため、open class を応用してカリキュラムの実用性を高める。
〇活動内容：
（ア）平成 21 年度パラグアイ研修員 Mr.Jose、Ms.Debora の各学校をパイロット校とした open class の実施及び本邦研修の学びの共有
個別指導計画の定型化、個々の生徒に適した教材の作成、open class 実施のためのガイドライン作成、所属組織の教員に対する open class の実施等
（イ）機能的カリキュラムの開発・作成
教育省の中で作成チームを作り、定期的な会議を開き進めていく。
特別支援学校にある既存のカリキュラムをもとに全国的にカリキュラムを作成していきたい。
関係者向けのワークショップを開催する。
open class を通じ、機能的カリキュラムを普及させる。
モニタリングを実施する。

(5)今年度研修員のアクションプラン内容に対するチリからの評価・コメント

ア．エクアドル

- 分かりやすく、良くできたプランである。
- アクションプランを共有していくために、帰国後実施したことを全て書き出すことが重要である。
- 特別支援学校が活動の中心なので、教育省が支援をしながら、INSFIDIM（略称はフルスペル要）が活動を引っ張っていくことが重要。
- 啓発活動を実施する際、障害児を持つ家族の参加が重要。AAC(Augmentative & Alternative Communication)の機器も教師と家族がどう使うかが大切である。
- 特別支援学校同士のネットワークを作り、環境機能カリキュラムの内容・方法を伝えていくとよい。アクションプラン実施の各段階で伝えていくことが重要。
- open class を行い、1 年に 1 回他校を招待し、open class の効果に対する他校からの評価を得られる場合には、他校への波及により、国内展開を図るとよい。
- 大学の中に特別支援教育の学科を設置し、教員養成プログラムを実行する。学生の実習は、特別支援教育の授業を観察させるところから始める。
- 個別指導計画の有効な使い方を再検討する必要がある。

イ．ボリビア

- 教育省と特別支援学校がより密接な関係を持つことが重要。チリ教育省からも（自らの経験を踏まえ）助言する用意がある。
- 他の帰国研修員と連絡を取り合い、団結して取り組むことが重要。
- まずは、自校の普及活動に注力し、学校内のモチベーションを高めることからはじめると良い（内部を 80%、外部を 20%ぐらいの力の入れ方)。

・ 学校に養成コースを作ること。
・ ①学内の普及を図る、②特別支援学校で open class を行い周囲の関係者に見せる、と順に取組むことで成果の確保がしやすい。
・ JICA ボリビア事務所とも、連携を取ることも重要。
・ 教師となった卒業生の組織化をはかり普及を進めるといった方法も検討に値する。
・ 学生にまず教えるのも早道。

ウ．パラグアイ
・ 知的障害に対する対応が弱い（質の問題）。特別支援教育の教員養成が抜けている。
・ 基礎からカリキュラムを作る必要がある。
・ 教育の概念を変えるツールになるため、open class にもっと力をさくべき。
・ 機能カリキュラムは、教える内容がこれまでとは同じでも教える方法が異なる。
・ チリでは、障害の政策作りからスタートし、関係者(学校・生徒・親・他)から意見を聞いた。そのやり方は、パラグアイでも有効ではないか。特に、特別支援学校の教員から聞くのは重要。

2-9　チリ、ボリビア、エクアドル、パラグアイの持続的ネットワーク構築

(1)日時：平成 21 年 10 月 16 日（金）17：10～18：10
(2)場所：UCINF 大学　講義室 467 号室
(3)面会者：
ア．Ms.GODOY LENZ Maria Paulina （平成 18 年度研修員、教育省）
イ．Mr.PAVEZ ACUNA Gines Alfredo（平成 20 年度研修員、Coanil 財団校長）
ウ．Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio（平成 20 年度研修員、UCINF 大学教師・教育コーディネーター）他
(4)内容
チリ在外補完研修単元目標(4)の達成に向けて、平成 21 年度研修員及びチリ帰国研修員間で、4 カ国における持続的なネットワーク構築についてディスカッションを行った。ディスカッションに基づき決定された内容は以下のとおり。
ア．ネットワーク構築の目的
各国が作成したアクションプランに沿った経験の共有
イ．共有内容
・ 各国の教員研修の内容
・ open class とその構成（計画・実施・研究会・定型化）
・ 各国で見られる教育上の問題等の共有
ウ．枠組・運営方法
・ 4 カ国を束ねる全体コーディネーターを 1 名及び各国の研修員を束ねる各国コーディネーターを各 1 名選出。

・ 各国コーディネーターは今年度及び来年度の研修員を取りまとめ、自国での活動の連絡調整業務を行い、全体コーディネーターに伝達。
・ 全体コーディネーターは、各国コーディネーターから集まった情報を全体に共有。各国のコーディネーターは以下のとおり。
　－エクアドル：Ms.GALLEGOS NAVAS Miriam Mariana
　－パラグアイ：Ms.ROJAS BENEGAS Maria Fatima
　－ボリビア：Ms.ROCHA HURTADO Delia Ana
　－チリ及び全体：Mr.AGUILERA TELLEZ Claudio

エ．手段
・ インターネット
・ ブログ（書籍・情報の掲載等）
・ メーリングリスト（日常的なやり取り）等

オ．日本側団員による質問・コメント

佐藤団長：人事異動等の関係で担当者が替わった場合を想定し、予め連絡体制の維持方法もあわせ検討しておくと良い。
→基本的にこのネットワーク参加者は、本邦研修に参加した者と考えているため、担当が替わった場合については、各国ごとに誰が引き継ぐか、別途考慮する必要がある。
野村団員：生の声や写真を入れるとなおリアルなやりとりができるのではないか。
小林チリ支所長代理:限られた人だけがアクセスできるネットワークにするのか？それとも公開にするのか？
→まずはアクセス権を限定した上で実施する予定。
小林チリ支所長代理：来年度の研修員が来日する前に、事前オリエンテーションは可能か？実施する場合、どのようなオリエンテーション内容を考えているか？
→エクアドル：自分たちが行っている活動を伝える。
→パラグアイ：JICA に対し提出する報告書を渡すことも一つ。
→ボリビア：JICA に対し提出する報告書を渡し、またメール等でやり取りを行う。

第 3 章　チリ在外補完研修結果概要

3-1　団長所感

（佐藤団長）

本在外補完研修（「南米地域特別支援教育」）は、平成 21 年 9 月～10 月に亘り本邦研修を受けた、エクアドル、パラグアイ、ボリビア 3 カ国の研修員を対象に、帰国研修員の活動事例を学ばせることにより、本邦研修の学びを深めさせ、帰国後の活動がより円滑かつ確実に実施される可能性を高めることを目的としている。

訪問先のチリは、平成 18 年度～平成 20 年度において、特別支援教育に係る本邦研修の対象国となっており、帰国した研修員達は、すでに研修で得た知識を各所属先の活動に反映していることから、彼らのアクションプランの実施状況を把握し、日本の知識や技術を南米文化の中に移転させる過程において、どのような工夫や取組みがあったのかについて、チリの帰国研修員から聞き取ることを通じ、本年度の本邦研修で日本の現状や知識・技術を学んだ南米 3 カ国の研修員の理解を深めさせ、より現実的かつ具体的なアクションプランの作成を行わせることを企図したものである。

したがって、本在外補完研修においては、帰国研修員の所属先である、チリ教育省、大学、特別支援学校（以下、学校）等を訪問し、チリにおける特別支援教育の質の改善に向け、本邦研修で学んだ内容をどのように各人の活動に反映させ、経験を蓄積させているか、また、各機関間でどのような連携を図っているかにつき、帰国研修員等関係者と意見交換を行い、研修員が学びを得ることが可能となるように計画した。

チリ側との協議や訪問を通じて得た気づきの点として、まず第一に、特別支援教育の質の改善に向けた取り組みが、帰国研修員を中心に、国、大学、学校の各レベルで行われるのみならず、これら機関の連携が、実質的に帰国研修員のネットワークを中心に行われることにより良好に機能し、国全体として効果的に展開されている様子が覗えた。

チリは、本邦研修に対しては、平成 18 年に教育省から 2 名の派遣を行い、以後、平成 20 年まで、3 年間で合計 10 名の大学及び学校の幹部や教師等が本邦研修に派遣されたが、初年度、教育省から派遣された研修員が研修終了時のアクションプランにおいて、政策レベルの課題（「チリ教育政策における特別支援教育の明示」並びに「授業及び学習の質改善」）を掲げ、帰国後実施に移す一方、その後の大学及び学校レベルの研修員派遣に際しては、政策と教育の現場の改善策が整合性を持ちつつ実施されるよう、事前に帰国研修員のアクションプランを共有するなど、3 年間の本邦研修を有効に活用する工夫をしたとのことである。

また、教育省帰国研修員によれば、帰国後、アクションプランを実施し、特殊支援教育指針を見直す中で、「一般児と同等の教育の機会提供」や「教員養成課程の重視」等、本邦研修で学んだ内容を指針に含めているとの事である。また、授業の質的改善を図るツールとし

て、open class の全国への普及を図るべく、学校の中からパイロット校を定め、open class の実施支援を行うとともに、大学との連携を通じ、open class の体系化、教材作成、セミナー開催、ホームページでの紹介等を行い、実施経験の共有を図っている。

今回訪問した学校 3 校では、いずれも、帰国研修員が中心となって、open class を導入し、校内の他教師及び他校への普及に努めている。他方、特別支援教育課程の大学生が、実習生として学校に長期にわたり派遣されており、特別支援教育の現場に大学の知識が持ち込まれる一方、パイロット校に選ばれた学校で蓄積された経験が大学の研究に共有される仕組みも構築されている。

また、教育省は、現在カリキュラムの体系を改正すべく検討中とのことであるが、方向性としては、日本や諸外国の経験を参考とするとともに、大学や学校との情報共有を図った上、見直しを行い、改正方針を定めるなど、教育現場と政策のフィードバックも行っているとの事である。

こうした事例においては、前述のとおり、本邦で学んだ帰国研修員が、中央省庁の担当部署や学校長等、特別支援教育関連機関の要所におり、各人が持ち場で改善を図るとともに、各人・各機関の連携を通じ、国全体の特別支援教育の向上が促進されている姿が見て取れた。

本年度の研修員については、本在外補完研修の目的（「チリでの特別支援教育の取り組みと課題を把握し、アクションプラン実施に活用する」）に応じた成果を概ね得たと思われる。研修最終日に行われたアクションプラン発表会では、本邦研修終了時の発表に比較し、修正された内容となった。特に、アクションプランの内容を実際にどのように行うのかといった「具体性」の問題について改善が見られた。これは、我が方がチリ側に期待した、連携の具体的な方法及び open class 等の実施情況並びにこれらに係る現地化の経験に関し、チリ側各機関が、我が方の訪問目的を概ね正確に理解した上、関係者の説明や open class が適切に行われ、研修員との意見交換が効率的かつ効果的に行えたという、チリ側の協力が貢献要因として挙げられる。

実際に、研修員の感想の一例として、「日本で学んだことは、帰国後にできるのだろうかという不安があったが、チリにおいて、同じ内容が自然に行われているのを見て、これならできる、という自信を持った」という一言に代表されるように、机上で策定されたアクションプランの内容が、現場で見える形で提示され、チリ側関係者の経験を直接聞けたことが、研修員の理解を深めさせ、実現性の高いアクションプランの作成に貢献することとなったと思われる。

また、本邦研修に係る研修員応募の枠組みとして、1 カ国 3 名、かつ、省庁、大学、学校からの参加を基本としたが、研修員から、「チリの連携事例を見た結果、JICA が 1 ヶ国 3 機関を研修対象とした意味がよく理解できた」といった感想もあり、3 機関関係者が同時に研修を受け、帰国後、連携体制を構築または強化することの重要性や、今後の研修員の戦略的な派遣の重要性に気づきを得た模様であり、帰国後の関係者間での取り組みの強化が期待される。

しかしながら、研修員の属する一部の国では、政治体制が不安定であったり、省庁と学校

間の関係が必ずしも良好でない国もあるなど、チリと同様の3者連携体制の構築が、必ずしも円滑に確立し難い場合も想定されることから、こうした国については、展開のシナリオを整理した上、個別に対応が可能なことから始めて、帰国研修員等関係者も巻き込みつつ、徐々に活動の輪を拡げていく等、将来の展開に向けたプロセスの工夫も必要であろう。

今回の在外補完研修の特徴として、本邦研修と連続して実施したことが挙げられるが、一般的に、課題別研修が研修員帰国後の事後活動も成果発現の過程に含めている一方、帰国後の活動において、日本側のフォロー体制が必ずしもシステム的に行われていない現状からは、アクションプランの具体性や実現性を高めることを目的とした在外補完研修の実施は、本邦研修で学んだ日本の知識や技術が、現地において、より円滑に実施に移される可能性を高めさせる上で、有効な仕組みであると思われる。

他方、在外補完研修に係る計画と実施の仕方次第では、成果発現に対する貢献要因が、一転して阻害要因となる危険性もあると思われるところ、今回の在外補完研修の実施を通じ感じた教訓と提言を書き留めたい。

主旨に応じた好事例の確認

まず、効果的な在外補完研修実施の前提条件として、当然のことであるが、参考事例となるよい前例があることが挙げられる。今回の例では、「3 者連携」、「open class の導入」といった、本邦研修の視点として重要な点の好事例が、本年度研修対象国の近隣であるチリにて得られたことがあり、また、本邦研修実施から、さほど年数を経ていないことから、現役で活躍しているチリの帰国研修員の姿を見ることができた。アクションプランの具体性及び実現性を高めるために在外補完研修を実施する場合には、こうした本邦研修の主旨に応じた好事例があることが必要である。

受入国側への動機付け

上述のように、チリを先行事例として本邦研修員に提示したが、チリ側からの十分な協力を得るという観点からは、チリにとっても、「WIN-WIN」関係が確保されることが必要と思われる。「帰国研修員」という「絆」に頼るのみでは限界がある。実際、今回チリ側では、教育省でも国際協力局長や、大学学部長、学科長他の対応、各校の幹部の対応を得られ、責任ある回答を得ることができたばかりでなく、各校では、子ども達の心温まる出迎えを受けた等、周到な準備の上に、組織的な対応をいただいた。

これについては、帰国研修員の努力もあるが、彼ら自身も3年間の研修の実施と経験の蓄積があったものの、試行錯誤的な部分もあり、日本側のフォローアップを要していた面もあるものと思われる。実際、今回の調査団に参加頂いた日本側の専門家の講義においては、省庁、大学、学校関係者の他、学生を含む約100名のチリ側関係者が参集し、活発に意見交換が行われた。したがって、効果的な在外補完研修を実施する観点からは、受入国についても

フォローアップ的な要素を含んだ日程作成が、効果的な協力を得る上で重要であると思われる。

適切な研修員の確保

上述のとおり、本研修のねらいとして、国、大学、学校の 3 者間連携についての具体的事例を学ばせることも含んでいた。したがって、今回の研修を通じ、アクションプランの改訂作業にいたるまでの研修員間の共同作業が、最も理想的に行われたのは、これら 3 機関から派遣された研修員を含む国であった。他方、資格要件の不一致等により、一部機関しか参加できず、見直し作業を単独で行った国もあり、こうした国については、帰国後の関係者間への情報共有や帰国研修員との共同作業が必須となる。

したがって、今後の研修実施への教訓として、可能な限り 3 機関の研修員を同時に受入れるか、または、年度にまたがる戦略的な受入が重要であるため、本邦研修の目的と資格要件の設定の背景に関し、在外事務所や相手国政府等をはじめとした関係者間の認識の共有が重要である。

十分な協議時間の確保及び問題意識の共有

今回の研修は、現地カレンダー上の理由により日程が限られる中、駆け足の実施となった。必ずしも十分な協議時間を確保できない訪問が生じることから、事前及び実施期間中において、現地訪問時に効率的な意見交換が行われるべく、事前の関係者間の問題意識の共有に努めた。出発前にテレビ会議を開催し、「帰国研修員が帰国後において、本邦研修で学んだ内容を、どのように工夫して現地での実施に移したか」といった、当方の聴取したい内容や訪問の意図を事前にチリ側関係者に直接伝えるとともに、現地においても、各訪問先での意見交換に先立ち再度確認した。また、調査団の人数が、日本側 4 名、研修員 7 名の合計 11 名という多数に及んだため、日々、調査団全員参加の打合せの時間を設け、焦点が拡散しないように問題意識の共有を行い、無駄のない意見交換の実施に努めた。

さらに、訪問先での意見交換の時間が十分に確保できなかった面もあることから、研修後半においては、チリ側アクションプランの実施状況を学んだ後に、今年度研修員のアクションプラン改訂作業の時間を設け、その場に日本人専門家のみならず、チリ側の帰国研修員も改めて参加願い、チリの経験を、研修員のアクションプランに実際に反映させる機会を確保した。

最後に、冒頭において、本在外補完研修は、当初の目的を達成した旨、所感を述べたが、繰り返しになるが、貢献要因としては、的を射たチリ側の経験の提供と研修員の問題意識がうまく噛合い、日本側専門家の助言も合わせ、結果的に、短い期間にも拘らず、良好なアクションプランの作成が得られたものと思われる。

他方、協議の中で、チリの特長として、「教員の子どもと仕事への愛情」を指摘した帰国研修員の声もあったが、何よりも、そうしたチリの帰国研修員や今回の研修員達の、子ども

の教育改善に対する意識の高さ、「熱い気持ち」が全ての基礎にあったようにも感じている。

最後に、本研修実施にご協力いただいた、チリ教育省、大学、各学校における、帰国研修員及び関係者、並びに筑波大学関係者のご協力に対し、あらためて、この場を借りてお礼を申し上げる。

3-2　研修目標の達成状況

（野村団員、城戸団員）

本在外補完研修においては、研修目標「チリにおける特別支援教育の課題及びそれに対する取組みについて把握し、自国や自身の活動との比較を行うことで、帰国後のアクションプラン実施にあたり活用する」ことは、ほぼ達成されたといえる。

具体的な単元目標との関連から言えば、

(1)各国とも、アクションプラン発表の際に、チリでの実践・研究やそのシステム（教育省・大学・特別支援学校の密接な相互の連携）を知り、新たな知見を導入することが見てとれた。

(2)今年度の本邦研修に参加した各研修員から、本邦研修中に習得した open class 及び研修会、特別支援教育に関わる考え方や指導内容などの学びが語られるとともに、その学びをアクションプランに反映していることが分かる。また、それを踏まえた上でチリ帰国研修員と意見交換することで、チリ帰国研修員の所属組織においてどのように本邦研修の学びを蓄積し普及していったのか理解を深めていた様子が見てとれた。

(3)具体的には、以下 3-5 で述べるとおりだが、本邦研修中に作成したアクションプランが在外補完研修を通じてより良い内容に改善されていることが明らかであった。

(4)2-9 で記したとおり、当面チリ UCINF 大学スタッフが中心となり、ネットワークを構築することが決定している。

本邦研修中は、日本の特別支援教育制度が複雑で研修員には若干分かりにくかったように思われるが、チリ在外補完研修を通じて、教育省、大学、特別支援学校の連携と、連携のためのツールが明白に理解できたようである。

以上のことから、日本での学びとチリでの学びが有機的に関わり合いながら、自国で行うアクションプランを練っていくことができたと思われる。また、研修員の構成が、基本的には国・教育省、大学・教育関係、特別支援学校という 3 名の構成になっていることの意義及びその役割が重要であった。さらに JICA や日本の関係者に依存するのではなく、自助努力の方向性と実効性を持った内容を各国とも提案できたのは大きな成果であろう。

3-3　チリにおける本邦研修の学びの蓄積・普及内容及びその方法

（野村団員）

チリ帰国研修員のアクションプラン

チリ帰国研修員によるアクションプランの実践状況の特長は、
(1)過去3年間の研修員が一つにまとまりアクションプランを実行していること、
(2)「open class」の活用が重要なキーワードとなり、国、大学、特別支援学校の連携がスムーズに実行されていることにある。

具体的には、教育省の帰国研修員（Ms.Debora、Ms.Paulina）は、パイロット校に対する支援・指導、大学・学校との連携等、様々な機会を通じてopen classを紹介し、チリ国内での展開を目指している。大学の帰国研修員（Mr.Claudio）は、パイロット校に対する技術的側面支援、open classに関する研究、open classの普及活動（大学でのセミナー・各種研修会開催、出版等）、学校への実習生の派遣を行っている。また教育現場の帰国研修員(Ms.Bernardita、Ms.Jessica、Mr.Gines　et al.)は、学校内の教員の質の向上、周囲の学校へのopen classの普及を行っている。

このアクションプランの実施によって期待される成果及びその効果は、以下の点にある。
(1)教育省と特別支援学校が連携し､open classに関する研修を行うことで全国展開を図る。
(2)大学と特別支援学校（パイロット校）が連携し、open classに関する研究を進める。
(3)教育省や大学の積極的な関与・活動により、地域新聞、ラジオ、ブログ等を通じた特別支援教育及びopen classの広報が可能となる。

open class

チリでopen classを実施した成果として、以下の点が挙げられる。
(1)反省会で、生徒の学習に対する反応や学びの様子に対するコメントが集中するようになり、自分の担当する生徒がどのような学びを得たのかを客観的に認識することができるようになった。
(2)様々な立場の人（同僚、他校教員、父母等）から多様な意見を聞くことで、教員の教授技術が向上した。
(3)open classを実施した結果を次の授業に活用していく方法を一般化・システム化しようとする動きが出てきた。
(4)open classを実施するようになってから、以前は実施していなかった校内教員ミーティングを月に1度実施するようになった。その結果、教師間のコミュニケーションが変化し、他の教員とともに授業を作り上げるようになった。

(5)授業の中で達成したい目標にあわせて教材を作成し使用するようになった。
(6)以前より教員の授業に対するやる気が高まるようになった。
(7)教師から生徒に対し一方的に教えるのではなく、生徒が中心となって活動する時間が増えた。

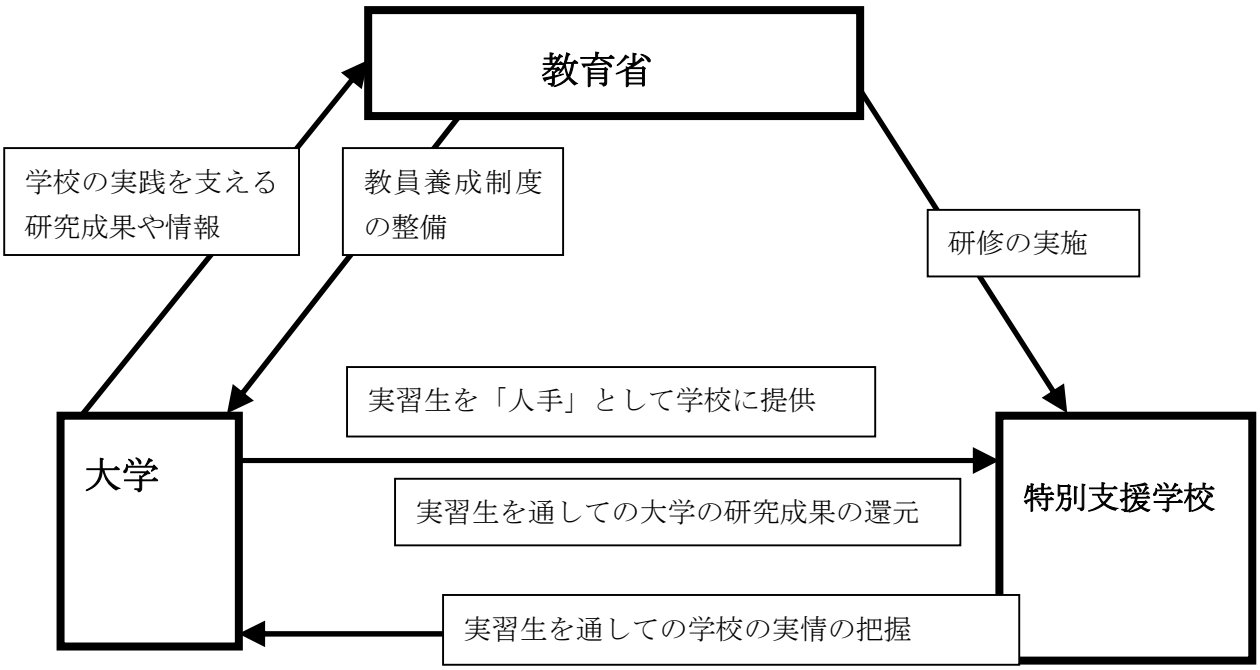
他方、チリ帰国研修員は、今後の open class に関する課題として、
(1)目的をはっきりと持った計画のもと open class を実施できるようにすること
(2)以前よりも普通教育のカリキュラムに沿った内容で特別支援教育を行えるようにすること（現在、生態学的機能カリキュラムの実施を進めている）
(3)生徒の家族とも連携して実施していくこと
の 3 点を挙げていた。

3-4　チリにおける教育省、大学、特別支援学校の連携

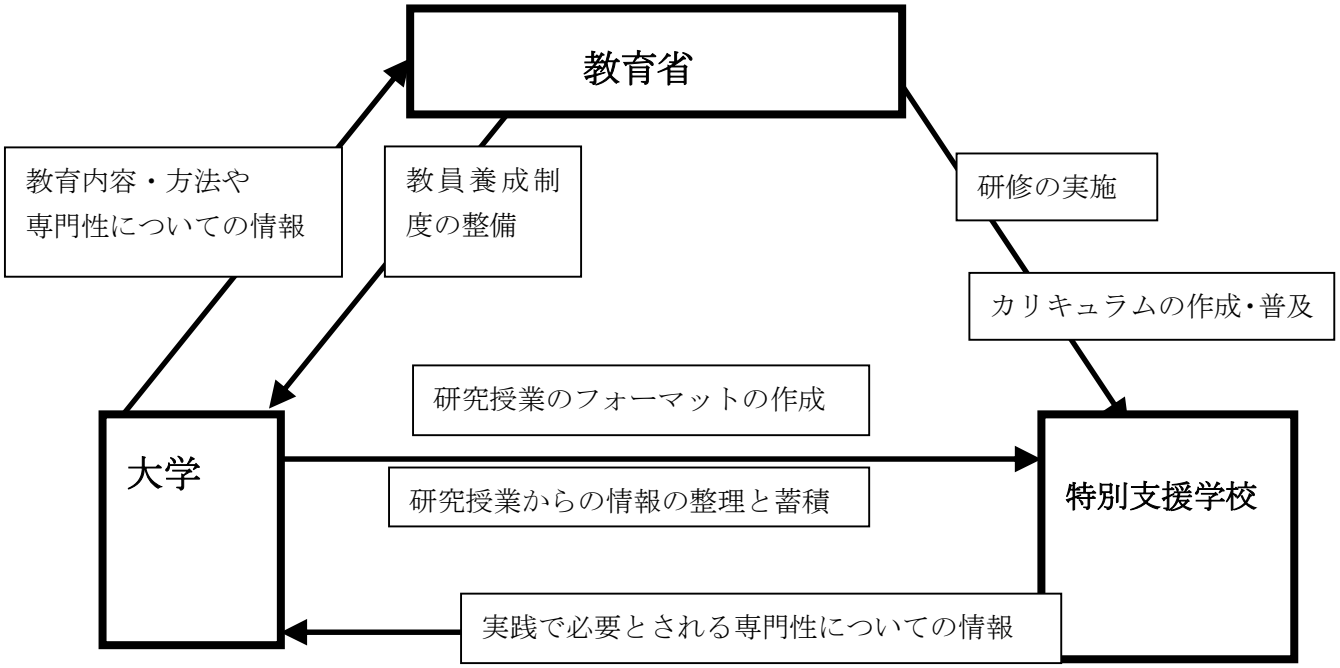
（城戸団員）

チリでは、日本での研修を通じて、教育省、大学、特別支援学校の 3 者のキーパーソンが、特別支援教育に関する以下の主な 4 点について共通認識を持ち、特別支援教育の整備を行っている。
(1)ナショナルカリキュラムの作成と普及（計画的な特別支援教育の実施と効果的な蓄積）
(2)特別支援教育教員の質の向上と大学での教員養成課程の充実（大学による特別支援学校の実践を支える研究開発の実施）
(3)障害特性に応じた学習環境の整備（教材教具の開発）（障害特性についての整理と理解の促進）
(4)保護者や地域と連携した特別支援教育の実施
また、３者の連携のツールとして open class と教育実習を活用している点や、チリ教育省、UCINF 大学並びに AlterEgo 特別支援学校、Amapolas 特別支援学校及び Coanil 財団の連携をモデルパターンとして全国的に広げている点が特徴として挙げられる。

（教育実習をツールとしての連携）



（研究授業をツールとしての連携）



＊どちらの連携も大学を中核として行われている。
＊特別支援学校は教育省が行う教育施策に対して特別支援学校の実践から積みあがったものであると考えている。
＊教育省は連携の中から作られた施策に自信を持っている。

図１　教育省・大学・特別支援学校の連携図

3-5　今年度研修員のアクションプラン内容に対する評価

（野村団員・城戸団員）

本邦研修終了時に作成したアクションプランの内容

本邦研修終了時において日本で発表したアクションプランは、3 カ国とも日本での研修内容を色濃く反映しており、日本での研修が自国の教育体制改善の視点になっていると感じられた。

他方、各国共通のアクションプラン作成上の課題は、アクションプランの中で、各研修員の現在の立場ですぐにでも実行できることと国の教育施策に関することの区別が十分ではないと感じられることだった。また、カリキュラムとカリキュラムの目的を達成するための配慮工夫とが区別できていないようにも感じられた。

なお、本邦研修中に作成したアクションプランの特徴を挙げるとすれば、以下の 2 点があろう。

第一に、エクアドル、ボリビア、パラグアイの 3 国が開発しようとしている環境機能カリキュラムは、似ている面もあるがコンセプトが全く異なる日本の教育カリキュラムの一領域である「自立活動」からは、一部参考となるとは思われるが、インパクトのある収穫は少なかったと思われる。ちなみに、近年、エコロジカルな観点は、心理学や応用行動分析の分野で導入が始まっている段階であり、社会福祉分野では、すでに障害者のアセスメントに具体的に応用され始めている。ICF（WHO：国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－）には、「人の生活機能と障害は，健康状態（病気〈疾病〉，変調，傷害，ケガなど）と背景因子とのダイナミックな相互作用と考えられ」、「背景因子には個人因子と環境因子の 2 つが」ある。「ICF は本分類の基本的構成要素である環境因子の包括的なリストを含んでいる。環境因子は生活機能と障害のあらゆる構成要素と相互に作用しあう。環境因子の基本的な構成概念とは，物的な環境や社会的環境，人々の社会的な態度による環境による，促進的あるいは阻害的な影響力である」とされ、人と環境の相互作用から障害にアプローチしている（WHO、2002「国際生活機能分類－国際障害分類改訂版－（日本語版）」。

第二に、スペイン語文化圏とアジア文化圏との違いがあると思われる。日本では、他国に比べ比較的に地域差・文化差が少ない国（近年アジア諸国や南米諸国の子どもたちも日本で教育を受ける機会が増えているが）と考えられる。民族も、3 カ国には種々の民族がいて、多様性（diversity）が教育の課題の一つになっている。

なお、本邦研修終了時に発表された各国アクションプランに対する野村・城戸が感じた特徴及び課題は以下のとおり。

(1)エクアドル

ア．特徴

（ア）運動障害・知的障害を主な対象にして、学習能力及び生活能力を高めることを目的としている。

（イ）日本の「自立活動」をモデルとしている。
（ウ）本邦研修の学びをふまえ、open class の持ち方として、作業の方法、ルーチンワーク、板書法、子どもの動きのとらえ方が反映されている。また、自立活動の考え方や、PEC（Picture Exchange Communication System）を導入している。
イ．課題
（ア）研修員 3 名の中では、内容や方法等は共通理解されているが、「環境機能カリキュラム」のベースになるカリキュラムや考え方がエクアドルに存在していない。
（イ）「環境機能カリキュラム」の考え方をどのように普及させ、作成に繋げていくかが明らかではない。
（ウ）個別指導計画との関連が十分に意識されていない。

(2)ボリビア
ア．特徴
本邦研修の学びとして、個々の生徒に対する質を重視すること、生徒に対する態度、教師の仕事に対する取り組み、継続的に取り組む姿、価値観の形成、職務に対する態度を、普及啓発、研修ワークショップに取り入れている。
イ．課題
活動地域において障害者に関する理解が不足しているため啓発活動を行いたいとの意図があるが、教員養成という立場からどこを中核にした活動とするかが不明である。それぞれの活動がばらばらに行われても効果的な動きにはならないと思われる。

(3)パラグアイ
ア．特徴
本邦研修の学びとして、個別指導計画の作成、日本で学んだことを普及･啓発すること、open class の手法を活用することが取り入れられている。
イ．課題
（ア）パラグアイには、学校別の知的カリキュラムはあるがナショナルカリキュラムはないとすれば、何に準拠して自閉症のカリキュラムは自閉症のカリキュラムは自閉症のカリキュラムは自閉症のカリキュラムを作るのか。
（イ）ナショナルカリキュラムが関係者の会議で作成されるのみとなっており、作成の過程が十分ではない。

チリ在外補完研修時に作成したアクションプラン修正版の内容

(1)エクアドル
チリの実践から open class が「環境機能カリキュラム」の作成と普及に重要なツールとなりうることを理解して、カリキュラム作成の前段階として考え方の普及のために open class をアクションプランに組み入れた。全体としてチリの 3 者連携を強く意識したアクションプランになっている。

(2)ボリビア

チリの実践から教育実習生を大学の周辺地域の特別支援学校に長期に派遣することの有効性とモデル地域を作ることで全国的に発信できることに気づきアクションプランに組み入れた。また JICA、ボリビア帰国研修員、チリ帰国研修員との連携を強く意識したアクションプランとなった。教育実習生の大学周辺地域への派遣を核としたことで実現性の高いプランになった。

(3)パラグアイ

チリの実践から open class を定式化していくことが情報の共有や専門性の蓄積につながることに気づきアクションプランに組み入れた。チリは「準ずる教育課程」[3]に一本化していることから、障害別の教育課程作成を考えているパラグアイとの有用な議論が行われた。

パラグアイではナショナルカリキュラムが存在しないため「計画的な特別支援教育」ができていない現状があり、ナショナルカリキュラムの作成が教育省としては早急の課題ではあるがトップダウン的なナショナルカリキュラム作成については再考が迫られた。

3-6　チリの 3 年間の蓄積及び変化

（野村団員・城戸団員）

3 年前との比較

チリでは、以前 open class は実施されていなかったものの、平成 18 年に JICA のプロジェクトで、一般教育の算数教育を対象とした本邦研修が行われ、その研修の中で open class が紹介された。その後チリ研修員（教育省・大学）が中心となり、チリ国内で open class が行われ始めた。マスコミにも「チリが注目する教育モデル：日本」と全国紙で紹介され、反響をよんだ。その結果、open class に関しての急速な普及が進んできた。特別支援教育も、本邦研修を 3 カ年行っており、普通教育ほどではないが、大きく変化してきている。

平成 20 年度との比較

平成 20 年夏、チリを訪問した上條専門家（ボリビア）によれば、以下の点を指摘している[4]。

① パイロット校である Amapolas 校では、open class の進め方に不安があったようだが、

---

[3] 日本の特別支援学校では「幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準じた教育課程」「知的障害者を教育する特別支援学校の教育課程」「自立活動を主とする教育課程」の 3 つの教育課程に障害種別の指導上の配慮事項を加えて教育が行われている。日本の教育課程はこのように複線型であるが、チリのように「幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準じた教育課程」のみを置き各障害特性に応じた配慮事項をくわえて教育を行う単線型の教育課程を組む国も多い。

[4] ボリビア出張報告より抜粋

大学との連携で大きく進歩した。

② 教育省はパイロット校を各地域から 30 のパイロット校を選出し、重複障害に関する研修、知的障害児の読み書きに関する研修、障害児の成人移行期に関する研修を実施した。

③ 文部省特殊教育ユニットは、JICA チリ支所に頼るのでなく、教育省としての役割を十分理解できている。

④ チリの特別支援教育は治療的な側面が強く、日本での研修及びボリビア・サンタクルスでの在外補完研修を通じて、普通教育のカリキュラムを基礎とした特別支援教育のカリキュラムを考慮するようになった。

⑤ Amapolas 校の open class は、校内での経験の共有（授業を公開した教師も見学した教師も共に自分とは違うやり方を交換し合える）を実施し、地域の他の学校への open class 及び国内の他の学校への open class システムを取り入れて行く予定である。

⑥ メトロポリタン大学と Amapolas 校との連携は非常に密接に行われており、大学の実習生の質が大きく変化し、質の高い実習が Amapolas 校において行われるようになった。

⑦ Amapolas 校では、授業案をどう書けばいいのか、open class を使った校内研修として次に何をすべきか、普通教育の幼稚園のカリキュラムを基礎にして Amapolas 校のカリキュラムに応用しているがどう子供たちのレベルに合わせていいのかといった悩みを抱えている。

⑧ open class の利点として、授業を見学し、教師が授業を公開できるようになり、自分もやってみたいという教師が出てきたこと等が挙げられる。

今回チリを訪問して、上述の課題がかなり改善されていることが明確となった。特に、open class は、チリ独自の工夫が見られ、授業指導案のフォーマット化、授業反省のシート作成、反省を行うためのシステム化などより進んだ点が見られた。しかし、UCINF 大学と教育省や特別支援学校との連携の様子は分かったが、他の大学や他の特別支援学校（Amapolas 校、AlterEgo 校、Coanil 財団 Los Laureles 校以外）の様子は、報告からはほとんど知ることができなかったため、今後、チリ全国の進捗状況が報告されることが望まれる。また、新しいカリキュラムの課題や取り組みについては理解できたものの、チリが現在直面している課題や悩みについてはよく見えなかった。１年後に実施予定の平成 21 年度研修員進捗報告 TV 会議の中で整理できると良いと思われる。

第 4 章　提言と教訓

4-1　提言

（城戸団員・甲田団員）

今回の日本での研修の内容は、特別支援学校の参観、特別支援学校教員による演習や講義、大学教員による講義等で構成され、研修員の最終的なアクションプランからは日本での研修の内容が強く反映されていたことから内容、構成ともに適当であったことがうかがえる。またチリ在外補完研修から多くの示唆を受けてアクションプランが実現可能なものに変化していったことから、今回の研修の全体的な計画は適切なものだったと考える。

他方、第 2 章に見られるとおり、今年度の研修員はアクションプランの作成にあたり、カリキュラム作成、個別指導計画、open class といった点の導入を計画しており、これらに対する日本及びチリの知見を強く求めていたことがわかる。本研修は 3 年間でアクションプランを達成するという枠組みになっていることから、研修員の要望・期待を踏まえ、以下のとおり、来年度以降の本邦研修の内容に一部追加・変更が必要と思われる。

(1)特別支援学校の授業参観及び特別支援学校教員による講義

open class の一層の普及を実現するためには、各学校・教員レベルの理解が不可欠であるが、授業参観は、言語が異なっていても学校現場の現状と課題を理解する上で非常に重要であり、特に、研修員の授業参観での需要は、障害特性に応じた学習環境の整備及びカリキュラムの構成にあることから、それらの点に留意した授業参観の方法や講義の内容を整える必要がある。

個別指導計画の必要性は各国共通であることが確認できたため、日本の特別支援学校の個別指導計画がどのように作られどのように授業に活かされているかといった情報を学校現場から提供できると有効性が高いと考える。

(2)大学教員による講義

① 特別支援教育教員の大学での養成について

② 現職教員の専門性向上のための研修方法について

③ カリキュラム論（ナショナルカリキュラムについて）

これまでの研修員のほとんどが日本の特別支援教育の計画性（学習指導要領から年間の指導計画、各授業の授業案への流れ）を高く評価している。

④ 授業研究の方法について

南米での open class への関心は非常に高く、さまざまなツールとして有効に利用されている大学や教育省では、open class のフォーマット化を計画しており、日本のこれまでの open class の知見が必要とされている。

⑤ 個別指導計画について

個別指導計画の必要性は各国共通であるが、学習指導要領から各授業の流れの中でどのように位置づけられどのように機能するかがまだ意識されていない。

⑥ 「自立活動」について

学校の教員が行う「自立活動」についての関心は高く、それぞれの国でも取り入れようとしている。個別指導計画と関連づけて理解を深めていく必要がある。

4-2 教訓

（甲田団員）

最後に、類似の在外補完研修を計画・実施する際に参考となると思われる教訓を書き留める。

(1)在外補完研修実施国の選定

本在外補完研修が概ね成功裡に終了した貢献要因として、3－1「団長所感」に記載のとおり、「3 者連携」「open class の導入」といった好事例を有するチリ帰国研修員が存在していたこと、またチリ帰国研修員側も本在外補完研修を受け入れることのメリットを多分に感じていたこと、関係者間で、事前及び在外補完研修中における問題意識及び目的意識を共有していたことが挙げられる。在外補完研修を計画する際は、想定する研修実施国がどのような優良事例を有しているのか、その優良事例が研修対象国のニーズに合致しているのか、また在外補完研修実施国において、本邦研修終了後どのようなニーズが生じているかといった点を事前に確認することが重要である。

(2)適切なアドバイザーの配置

本在外補完研修に同行していただいた野村団員・城戸団員には、本邦研修中から研修員のアクションプランに対しアドバイスをしていただいた。両団員は、日本の特別支援教育の現場に明るい専門家である。さらに、野村団員は、以前ボリビア特別支援教育の調査にも携わったことがあり、日本と中南米双方の特別支援教育の知見をふまえたアドバイスをすることが可能であった。在外補完研修の実施にあたっては、日本及び研修対象国の当該分野における特徴・課題を把握している専門家を確保するとともに、在外補完研修のみならず本邦研修実施時から深く研修に関与してもらうことが重要である。

(3)適切な研修枠組の構築及び枠組に合致した研修員の選出

本研修本体部分の本邦研修は、研修成果の定着・普及を確保すべく、教育省、大学、特別支援学校の 3 者が連携をしながら 3 年間で研修目標を達成するという枠組を設定したことが大きな特徴の一つである。在外補完研修のみならず本邦研修を成功させるためには、研修対象国各国の現状にあわせた枠組の構築及びその枠組に合致した資格を有する研修員の選出が非常に重要であり、そのためには課題部や在外事務所等と密に連絡を取り合うことが必須となる。

参考文献

・Arturo Mena-Lorca(2008)Novel aspects of Lesson Study in Chile,APEC-KHON-KAEN International Conference Ⅳ ,24-31

・筑波大学　2007　速報つくば　第19号

別　添　資　料

1.「南米地域　特別支援教育」本邦研修概要
2. 研修対象国の関係概念図
3. 本邦研修中に作成したアクションプラン（スペイン語）
4. チリ在外補完研修中に作成したアクションプラン（スペイン語）
5. アクションプラン進捗発表会 TV 会議議事録及びファイナルレポート（日本語・スペイン語）
6. 野村団員・城戸団員講義資料

「南米地域　特別支援教育」本邦研修概要

1．枠組（平成 18 年度～平成 20 年度）

(1) 平成 18 年度

ア．上位目標

本コースの実施により各国の障害児教育のための活動改善及び普及がされる。

イ．研修目標

日本の障害児教育を理解し、有効となる知識から自国の障害児教育の活動改善及びその普及ができるようになる。

ウ．単元目標

（ア）自国の障害児教育の現状・課題が把握・分析される。

（イ）日本の障害児教育（制度、体系、考え方、取り組み等）を理解する。

（ウ）研修報告書及び自国の障害児教育改善のための活動・普及計画案（アクションプラン）を含む中間計画書（インテリムレポート）が作成される。

エ．研修員資格要件

アルゼンチン 2 名、ボリビア 2 名、ブラジル 2 名、チリ 2 名、コロンビア 2 名、ペルー2 名　計 12 名

中央政府教育省　障害児教育分野担当セクション行政官

(2) 平成 19 年度

ア．上位目標

本コースの実施により、各国の特別支援教育の活動が改善・普及される。

イ．研修目標

日本の特別支援教育（特に知的障害）における教師教育の概要を理解し、自国における教師教育の取り組みが改善される。

ウ．単元目標

（ア）所属する地域・学校レベルの特別支援教育（特に知的障害）における教師教育の現状・課題が把握される。

（イ）日本の特別支援教育概要（歴史、制度、カリキュラム、学校現場等）を理解する。

（ウ）日本の特別支援教育の教師教育を理解する。

（エ）所属する地域・学校の教師教育改善のための活動計画（アクションプラン）及び自国教育省への教師教育改善のための提言書が作成される。

エ．研修員資格要件

チリ 4 名、ボリビア 4 名、ペルー4 名

① 国又は県の特別支援教育担当部署　指導主事

② 特別支援教育学校の校長又は教頭と中堅教員（同一の学校から 2 名であること）

＊ ①②はどちらも同じ地域であること（国の特別支援教育担当部署の場合はその限り

ではない)

＊ 学校は、国ないし地域の特別支援教育拠点校であること、又は①と連携がとられていることが望ましい。

(3) 平成 20 年度

ア．上位目標

本コースの実施により、各国の特別支援教育の活動が改善・普及される。

イ．研修目標

日本の特別支援教育（特に知的障害）における教師教育の概要を理解し、自国における教師教育の取り組みが改善される。

ウ．単元目標

(ア) 所属する地域・学校レベルの特別支援教育（特に知的障害）における教師教育の現状・課題が把握される。

(イ) 日本の特別支援教育概要（歴史、制度、カリキュラム、学校現場等）を理解する。

(ウ) 日本の特別支援教育の教師教育を理解する。

(エ) 所属する地域・学校の教師教育改善のための活動計画（アクションプラン）及び自国教育省への教師教育改善のための提言書が作成される。

エ．研修員資格要件

チリ 4 名、ボリビア 4 名、ペルー3 名　合計：11 名

① 国又は県の特別支援教育担当部署　指導主事

② 特別支援教育学校の校長又は教頭と中堅教員（同一の学校から 2 名であること）

＊ ①②はどちらも同じ地域であること（国の特別支援教育担当部署の場合はその限りではない）

＊ 学校は、国ないし地域の特別支援教育拠点校であること、又は①と連携がとられていることが望ましい。

2. 枠組（平成 21 年度～平成 23 年度）

ア．上位目標

対象地域（研修参加者勤務先行政管区）において、障害を持つ児童のニーズに配慮した教育の導入に係る学校・中央（又は地方）教育行政・大学の連携により、特別支援教育に携わる教員及び授業の質が向上する。

イ．研修目標

3 年間の研修参加者が共同で作成する教師教育改善活動案が所属地域や学校等の関係者間で共有・試行される。

ウ．単元目標

(ア)所属する地域・学校レベルの特別支援教育（特に知的障害及び自閉症）における学校と教師教育の現状・課題を把握する。

(イ)南米地域が抱える特別支援教育に係る共有課題について整理する。

(ウ)日本の特別支援教育概要（歴史、制度、カリキュラム、学校現場等）を理解する。

(エ)日本の特別支援教育の教師教育や学校及び教師の質向上のための多様なアプローチを理解する。

(オ)所属する地域・学校の教師教育改善のための改善活動案（アクションプラン）、研修レポートを作成する。

(カ)帰国後、改善活動案（アクションプラン）を関係者と共有・検討・実施し、進捗状況についてインテリムレポートとして提出する。管轄地域の特別支援学校（特に知的障害や自閉症）における学校及び教師教育の課題が整理される。

エ．研修員資格要件

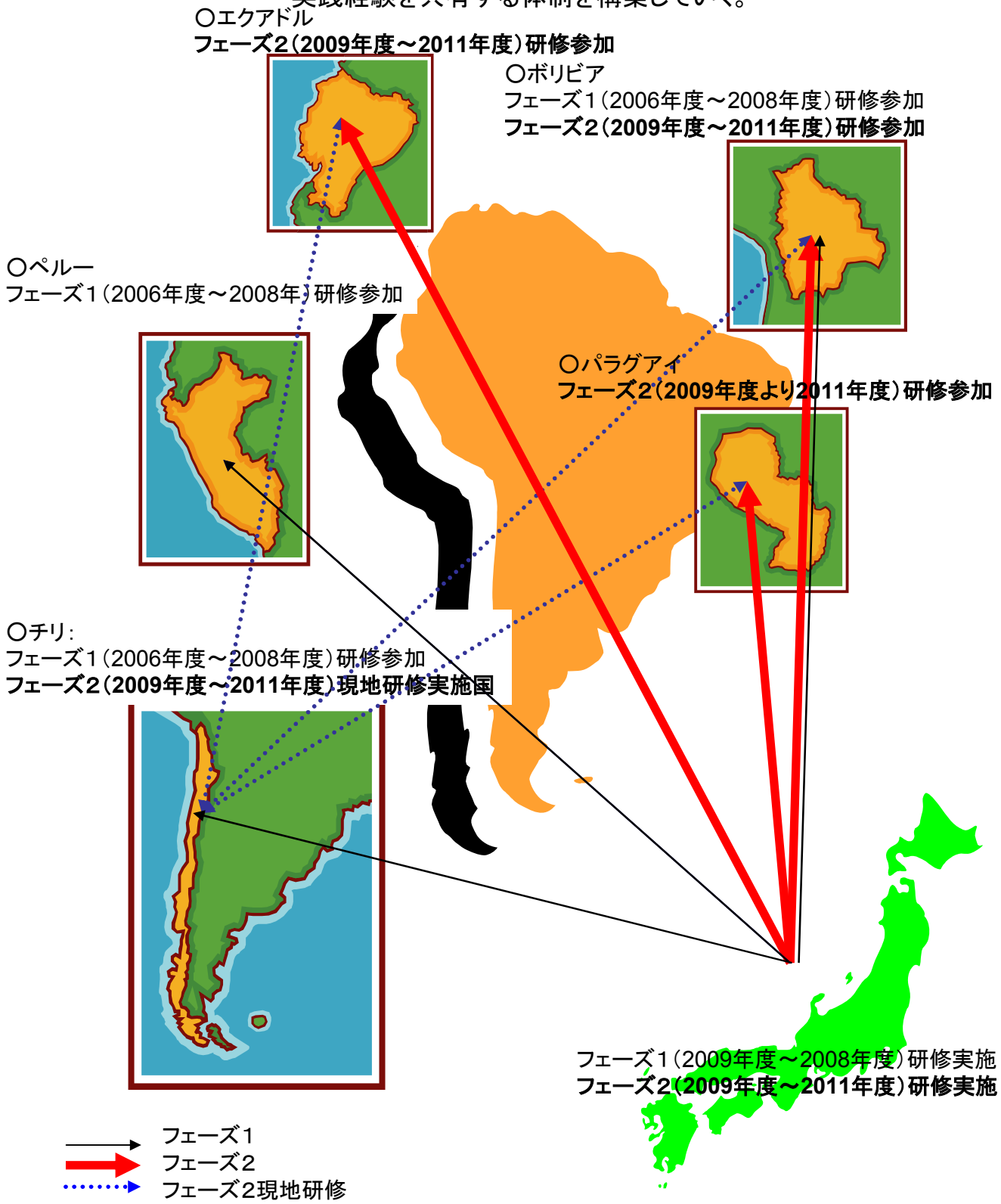
エクアドル 3 名、パラグアイ 3 名、ボリビア 3 名

① 国又は県の特別支援教育担当指導主事（国の状況により、特別支援教育の教育課程がある大学教員でも可）

② 特別支援教育学校の校長又は教頭と中堅教員（同一の学校から 2 名であること）

研修対象国の関係概念図

特別支援教育の取組みが最も進んでいるチリを幹事国として南米地域での
実践経験を共有する体制を構築していく。



ministerio de educación ECUADOR

Annex
Sample format of the Action Plan

Name: Equipo Ecuador Country: Ecuador

Organization Ministerio de Educación-INSFIDIM

Your Position: División Nacional de Educación Especial

Duración: period: 2010- 2012

<Action Plan>

Duration: 3 AÑOS

Purpose(s)	**Fortalecer la implementación del currículo funcional en el Instituto Fiscal de Discapacidad Motriz (INSFIDIM) que responda a las necesidades educativas especiales de los estudiantes.**
Activities	**1. Programa de capacitación institucional del período 2010-2012** **1.1 Socialización de la capacitación.** **1.2 Curso de capacitación sobre el currículo** **1.3 Curso de elaboración de material didáctico** **1.4 Curso de uso de sistemas alternativos y aumentativos de comunicación.**
	2. Aplicación del currículo funcional **2.1 Creación de un equipo de apoyo.** **2.2 Elaboración de Planes de apoyo individuales** **2-3 Planes de orientación individual** **2.4 Orientación a padres** **2.5 Sistematización de la experiencia** **2.6 Monitoreo y evaluación**

Explanation of the each activity:

***Using Plan of Operation**

Activity 1

Write a brief explanation about the activities, clarifying who is going to do what, and how and when it will be implemented, etc.

Activity 2

…

Aplicar el currículo funcional en el instituto FEE en los años 2012 EN 60%

ministerio de educación ECUADOR

EDUCAMOS PARA TENER PATRIA

PLAN DE OPERACIÓN:
2010 2012

N.-	ACTIVIDADES	CRONOGRAMA																												RESPONBLE	BENEFICIARIOS	MATERIAL	COSTO	Fuentes de verificación
		2009		2010									2011									2012											
		11	12	1	2	3	4	5	6	8	9	10	1	2	3	4	5	6	8	9	10	1	2	3	4	5	6	8	9	10					
1	Programa de capacitación																																	evaluación de impacto
1.1	Socialización experiencia Japón																																	reporte del curso
1.1.1	revisión y organización de material																														Maria Gómez y Cecilia Castro	docentes y técnicos INSFIDIM	material de Japón	100	
1.1.2	programación de la capacitación																														Maria Gómez y Cecilia Castro	docentes y técnicos INSFIDIM	equipos y suministros de oficina	100	
1.1.3	desarrollo del taller																														Maria Gómez y Cecilia Castro	docentes y técnicos INSFIDIM	refrigerios, suministro de oficina, equipos	50	
1.2	curso currículo funcional																																	reporte del curso y material didactico elaborado, fotos vídeo. Reporte supervisor
1..2.1	programación capacitación																														Miriam Gallegos	Docentes y técnicos del INSFIDIM	suministros y equipos de oficina	100	
1.2.2	desarrollo del taller																														Melva Yépez	docentes y técnicos del INSFIDIM	refrigerios, suministro de oficina, equipos	100	
1.3	CURSO ELABORACIÓN MATERIAL DIDACTICO																																	reporte del curso y material didactico elaborado, fotos vídeo. Reporte del departamento

1.3.1	programación del taller																													Maria Gómez y Cecilia Castro	docentes y té cnicos del INSFIDIM	suministros de oficina, guía de materiales didá cticos	100	
1.3.2	recolección del material de reciclaje																													Maria Gómez y Cecilia Castro	docentes y té cnicos del INSFIDIM	tarros de basura para recolección de material	50	
1.3.3	desarrollo del taller																													Maria Gómez y Cecilia Castro	docentes y té cnicos del INSFIDIM	refrigerios, suministro de oficina, equipos, materiales varios	300	
1.4	Curso de sistemas alternativos de comunicaci ón																																reporte de curso, verificacion del uso de los PECTs en el aula
1.4.1	investigación del PECS																													Cecilia Castro	estudiantes docentes y té cnicos y padres de familia	textos de estudio	100	
1.4.2	Elaboración de modelos																													Cecilia Castro	docentes té cnicos y estudiantes del INSFIDIM	material y suministros de oficina, copias emplasticadora acetatos	800	
1.4.3	Entrenamiento y aplicació n previas de los PECS																													Cecilia Castro	estudiantes	peces, calendarios, organizadores, material concreto, juegos varios	800	
1.4.4	programación capacitació n																													Cecilia Castro	estudiantes docentes y té cnicos y padres de familia	computadora, impresora	50	
1.4.5	Ejecución de capacitación																													Cecilia Castro	estudiantes docentes y té cnicos y padres de familia	material elaborado, emplasticadora, acetatos, suministros de oficinas y equipos tecnológicos	200	
1.5	Monitoreo y seguimiento																																Informe de seguimiento, reporte jefe departamental

1.5.1	Elaboración de fichas de monitoreo																														Maria Gómez , Cecilia Castro y Miriam Gallegos	estudiantes docentes y té cnicos y padres de familia té cnicos provinciales y nacionales	papel insumos de oficina	50	
1.5.2	validación de las fichas monitoreo y evaluación																														Maria Gómez , Cecilia Castro y Miriam Gallegos	muestra de estudiantes docentes y padres	fichas impresas	50	
1.5.3	Aplicación de instrumentos																														Departamento Provincial	estudiantes docentes y té cnicos y padres de familia	fichas impresas	50	
2	APLICACIÓN DEL CURRICULO FUNCIONAL																																	
2.1	Creación de un equipo de apoyo																																	acta de creación
2,1,1	motivación al personal																														Maria Gómez y Cecilia Castro	comunidad educativa	materiales de oficina equipos videos motivacionales	0	
2.1.2	selección del equipo de apoyo																														Dr. Victor Guerrero	comunidad educativa		0	
2.2	Elaboración de planes de apoyo individual																																	planes de apoyo aplicandose
2.2.1	recopilación de la historia, familiar médica y acadé mica de cada estudiante																														Docentes y Té cnicos	estudiantes y familia	materiales de oficina	0	
2.2.2	procesamiento de la información																														Maria Gómez y Cecilia Castro Docentes y Té cnicos	estudiantes y familia	materiales de oficina	0	
2.2.3	presentación del plan a la comunidad educativa																														Victor Guerrero Maria Gómez	estudiantes y familia	materiales de oficina	0	
2.3	Elaboración del plan de Orientación individual																																	planes aplicandose

2.3.1	Reunión de consenso y compromisos																													Maria Gómez y Cecilia Castro Docentes y Té cnicos	estudiantes docentes y té cnicos y padres de familia	materiales de oficina	0	
2.3.2	aplicación del plan de orientación individual																													Maria Gómez y Cecilia Castro Docentes y Té cnicos	estudiantes y familia	materiales de oficina	0	
2.4	Orientación a padres de familia																																	reporte de talleres, material elaborado. Carta ccompromiso de los padres
2.4.1	elaboración documentos informativos para padres																													Maria Gómez y Cecilia Castro Docentes y Té cnicos	comunidad educativa	materiales de oficina	0	
2.4.2	unificación y generalizació n del uso de la agenda escolar																													Maria Gómez y Cecilia Castro Docentes y Té cnicos	comunidad educativa	agenda escolar	100	
2.4.3	taller de capacitación																													Maria Gómez y Cecilia Castro Docentes y Té cnicos	comunidad educativa	trípticos, equipos y suministros de oficina, refrigerios	300	
2.5	Sistematización de la experiencia																																	documento impreso
2.5.1	aplicación del formato de sistematización																													Maria Gómez , Cecilia Castro y Miriam Gallegos Departamento Prov.	comunidad educativa, equipo central, instituciones de educación especial del país	copias de formato	0	

2.5.2	Procesamiento de datos																													Maria Gómez , Cecilia Castro y Miriam Gallegos Departamento Prov.	comunidad educativa, equipo central, instituciones de educación especial del país	materiales recopilados	0	
2.5.3	Elaboración de informe																													Maria Gómez , Cecilia Castro y Miriam Gallegos Departamento Prov.	comunidad educativa, equipo central, instituciones de educación especial del país	suministros de oficina	0	
2.5.4	Taller de socialización del informe																													Maria Gómez y Cecilia Castro	comunidad educativa, equipo central, instituciones de educación especial del país	documento base, refrigerios, equipos programación, invitaciones	500	
2.5.5	Publicación de la experiencia																													Ministerio de Educacion Miriam Gallegos	comunidad educativa, equipo central, instituciones de educación especial del país	texto editado	1000	

Name: DELIA ANA ROCHA HURTADO Country: BOLIVIA
Organizational E.S.F.M. DR. MANUEL ASCENCIO VILLARROEL
Your Position DOCENTE DE INTEGRACION EDUCATIVA

<Action Plan>

Duration:

Purpose(s)	**Capacitar y apoyar la formación de docentes en NEE de la E.S.F.M. Dr. M.A.V. en la localidad de Paracaya.**
Activities	**1. Motivar a la comunidad para especializarse en NEE.** **1-1Difusion y debate de las experiencias adquiridas en Japón.** **1.1.1 Reunión y entrega de informe a las autoridades.** **1.1.2 Preparación de Documentos y materiales para la difusión de experiencias a estudiantes y docentes.** **1.1.3 Preparación de Documentos y materiales para la difusión de experiencias al centro de Educación especial.** **1-2 Crear un Equipo de Apoyo** **1.2.1 Elaboración y entrega de invitaciones** **1-3 Campaña de concientización y apoyo** **1.3.1 Elaboración materiales** **1-4 Feria Pedagógica abierta a la comunidad.** **1.4.1 Preparación de los estudiantes para participar.** **1.4.2 Elaboración de materiales para participar** **1.4.3 Invitación publica a las autoridades y comunidades aledañas**
	2. Capacitar y formar docentes para el trabajo en NEE **2-1 Creación de una red de apoyo (dirección**

	académica, docentes , estudiantes, y otros especialistas) **2.1.1 Invitación a autoridades, docentes y especialistas** **2.1.2 Puesta en común de las propuestas por parte de los equipos de cada curso: dirección, técnicos directivos y profesionales de la institución.** **2.1.3 Elaboración de un rol de actividades para una gestión.** **2-2 talleres para la elaboración de materiales didácticos, adecuado a las NEE.** **2-3 cursos de capacitación para mejorar las estrategias metodológicas en NEE.**
	3. Preparación de la E.S.F.M. para la apertura de la carrera Educación en NEE. **3-1 Talleres de Capacitación** **3.1.1Jornadas de debate** **3-2 trabajar en un currículo acorde a las NEE** **3.2.1 Socialización en la ESFM.** **3-3 Propuesta final socializada a nivel Nacional.**

PLAN DE OPERACIÓN

BOLIVIA

OBJETIVO: Capacitar y apoyar la Formacion de docentes en Necesidades Educativas Especiales de la ESFM. Dr. MAV. En la localidad de Paracaya.

PLAN DE OPERACIÓN:
2009 2011

	ACTIVIDADES	CRONOGRAMA																										RESPONBLE	IMPLEMENTACION	MATERIAL	COSTO	OBSERVACIONES
		2009										2010								2011												
		1	2	3	4	5	4	9	10	11	12	1	2	3	4	5	8	9	10	1	2	3	4	5	8	9	10					
1.	Motivar a la comunidad para especializarse en educacion en NEEE																											Participante jica	Participante jica		Sin costo	
1.1.	difusion y debate de las experiencias adquiridas en japon																											Participante jica	Participante jica	Material proporcionado por Jica Japon	Sin costo	
1.1.1	Reunion y entrega de informe a las autoridades del ESFM																											Participante jica	Participante jica	Material proporcionado por Jica Japon	Sin costo	
1.1.2	preparacion de documentos y material de apoyo para la difusion de experiencias a los docentes y estudiantes.																											Participante jica	Participante jica	Material proporcionado por Jica Japon y otros de la institucion	Sin costo	
1.1.3	Preparacion de documentos y material de apoyo para la difusion de experiencias en el centro de Educacion Es.																											Participante jica	Participante jica	Material proporcionado por Jica Japon y otros de la institucion	20 $	
1.2.	crear un equipo de apoyo conformado por docentes de integracion educativa.																											Participante jica	Director academico, docentes de Integracion Educativa	No se necesita	Sin costo	
1.2.1	elaboracion y entrega de invitaciones.																											Participante jica	Participante jica	Invitaciones	20$	
1.3	Campaña de concientizacion																											Participante jica	Participante Jica, docentes y estudiantes.	Afiches, textos, folletos.	100$	
1.3.1	Elaboracion de murales y carteles																											Participante jica	participante jica y estudiantes.	Cartulinas, marcadores, pinturas, cartones, materiales varios.	100 $	
1.3.2	Socializacion en las aulas																											Participante jica	Participante jica	material audiovisual	Sin costo	
1.4	Feria Pedagogica Abierta a la comunidad																											Participante jica	Director General, Academico, Docentes, estudiantes, participante jica.	Rotafolios, pizarras, mesas sillas.	500 $	
1.4.1	preparacion de los Estudiantes para participar.																											Participante jica	Estudiantes	material audiovisual	Sin costo	
1.4.2	Elaboracion de materiales para la presentacion.																											Participante jica	participante jica y estudiantes.	Cuadros, Cartulinas, marcadores, pinturas, cartones, materiales varios.	300$	
1.4.3	Invitacion publica a las autoridades y comunidades aledañas.																											Direccion Academica, Participante Jica	Director academico y participante jica.	Sobres e invitaciones	50$	
2.	CAPACITAR Y FORMAR PARA EL TRABAJO DE EDUCACION EN NEE.																											Direccion Gereral y Academica	Direccion General, academica, docentes y participante Jica		3000 $	Gastos durante todo el proceso de capacitacion.
2.1	Creacion de una red de apoyo																											Direccion Gereral y Academica	Direccion Gereral y Academica	No se necesita	Sin costo	
2.1.1	invitacion a autoriades, docentes y especialistas.																											Direccion Gereral y Academica	Direccion Gereral y Academica	Sobres e invitaciones	20 $	
2.1.2	Puesta en común de las propuestas por parte de los equipos de cada curso: dirección, técnicos directivos y profesionales de la institución.																											Direccion Gereral y Academica y participante jica	Direccion Gereral y Academica y participante jica	Material de oficina		
2.1.3	Elaboracion de un rol de actividades para una gestion.																											Direccion Gereral y Academica	Direccion Gereral y Academica y docentes.	Material de oficina	Sin costo	
2.2	talleres para la elaboracion de materiales didacticos.																											Participante jica	Direccion Gereral y Academica y docentes.			
2.3	cursos de capapacitacion para mejorar las estrategias metodologicas en NEE.																											Participante jica	Direccion Gereral y Academica y docentes.			

3.	Preparacion de la E.S.F.M. para la apertura de la carrera de educacion en NEE.																									Direccion General y Academica.	Direccion Gereral y Academica y docentes.		5000$	Gastos durante todo el proceso de apacitacion.
3.1	talleres de capacitacion.																									Direccion General y Academica.	Direccion Gereral y Academica y docentes.	Material de oficina, computadoras, proyectoras.		
3.1.1	Jornadas de debate																									Direccion General y Academica.	Direccion Gereral y Academica y docentes.	Material de oficina, computadoras,		
3.2	Elaboracion de una propuesta de curriculum en NEE																									Direccion General y Academica.	Direccion Gereral y Academica y docentes.	Material de oficina		
3.2.1	Socializacion en la ESFM.																									Direccion General y Academica.	Direccion Gereral y Academica y docentes.	Proyectora y material de oficina		
3.3	Propuesta final socializada a nivel Nacional.																									Direccion General y Academica.	Ministerio de Educacion y responsable.	Proyectora		

Name: Fatima Rojas, Jose Duarte, Debora Godoy
Country: Paraguay
Organization Ministerio de Educacion y Cultura.
Your Position Tecnica , Director de Escuela, Maestra de Necesidades Educativas Especiles.

< Plan de Accion>

Duration:

Objetivos	**Implementar un curriculo funcional Adaptado.** **(Plan Piloto)**
Actividades	**1. Elaboracion del curriculo funcional conforme al desarrollo evolutivo. (Fatima** **1-1Conformacion de un Equipo para la elaboracion del curriculum.** **1-2-Analisis de contenido.** **1-3- Elaborar la propuesta final**
	2. Validacion del curriculo funcional en los estamentos correspondientes. (Fatima) **2-1- Elevar la propuesta a la Direccion General de Educación Inclusiva.** **2-2- Seguimiento en las instancia superiores correpondientes**
	3. Difusion del curriculo funcional. (Fatima, Debora, Jose). **3-1- Lanzamiento oficial del Curriculo Funcional** **3-2- Talleres Informativos a toda la comunidad sobre el**

	contendido del material. **3-3—Entrega de materials a Instituciones del piloto** **4- Capacitacion en la aplicacion del curriculo funcional. (Fatima, Debora, Jose)** **4-1- Talleres informativos a los docentes que implementaran el Curriculo (piloto)** **4-2- Cursos teoricos practicos en la implementacion del curriculo.** **5- Aplicacion del curriculo funcional.(José, Débora,).** **5-1- Selección de Institución/s que aplicaran el curriculo funcional** **5-2- Observación en campo de la aplicación.** **6-Evaluacion de la aplicacion del curriculo funcional. (Fatima, Debora, Jose).** **6-1- Elaborar una guia de evaluacion del trabajo en campo** **6-2- Evaluar el impacto en la población de la aplicación del Curriculo Funcional.** **6-3- Elaborar un informe sobre el impacto y/o resultado de la aplicación del Curriculo Funcional** **6-4- Presentación del informe de propuesta a los estamentos pertinentes de la implementacion del piloto para su aplicación a Nivel pais** **.**

Explanation of the each activity:
***Using Plan of Operation**
<u>Activity 1</u>

Write a brief explanation about the activities, clarifying who is going to do what, and how and when it will be implemented, etc.

Activity 2

…

PLAN DE OPERACIÓN: 2010
2014

	ACTIVIDADES	CRONOGRAMA																				RESPONSABLE	IMPLEMENTACION	MATERIAL	COSTO	FUENTES DE OBSERVACION
		2009										2010														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
	Implementacion																									
1	Elaboracion del curriculo funcional conforme al desarrollo evolutivo.																					MEC, becarios de JICA	MEC	Utiles de oficina, transporte	Gs. 200.000	
1.1	Conformacion de un equipo para la elaboracion del curriculo.																					MEC, becarios de JICA	MEC	Utiles de oficina, transporte	Gs. 200.000	
1.1.1	Convocatoria a los referentes de los distintos estamentos del MEC.																					MEC, becarios de JICA	MEC	Utiles de oficina, transporte	Gs. 200.000	
1.1.2	Reuniones sistematicas del equipo de elaboracion del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte, albergue y alimentacion	Gs. 200.000	
1.2	Analisis de contenidos a incluir en el curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte, albergue y alimentacion	Gs. 200.000	
1.2.1	Revision de contenidos de documentos con que se cuenta en el MEC																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte, albergue y alimentacion	Gs. 200.000	
1.2.2	Consultas de otras fuentes de informacion sobre el curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte, albergue y alimentacion	Gs. 200.000	

1.2.3	Elaboracion de propuesta final de contenidos a ser incluidos en el curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte, albergue y alimentacion	Gs. 200.000
1.3	Elaborar la propuesta final del curriculo																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte, albergue y alimentacion	Gs. 200.000
1.4	Editar un documento final en formato impreso																					MEC, becarios de JICA	MEC	Imprenta	Gs. 60.000.000
		CRONOGRAMA																				RESPONSABLE	IMPLEMENTACION	MATERIAL	COSTO	FUENTES DE OBSERVACION
	ACTIVIDADES	2011										2012														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
	Implementacion																									
2.1	Elevar la propuesta a la DGEI y a las instancias superiores																					MEC, becarios de JICA	MEC			
2.2	Seguimientos en las instancias superiores correspondientes																					MEC, becarios de JICA	MEC	Transporte	Gs. 50000	
2.3	Aprobacion del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC			
3	Difusion(entrega tecnica)del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 200.000	
3.1	Lanzamiento oficial del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 200.000	
3.1.1	Preparacion del programa de lanzamiento del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 200.000	

3.1.2	Informe explicativo sobre el curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 200.000
3.1.3	Invitacion a los diferentes estamentos																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina y transporte	Gs. 200.000
3.2	Talleres informativos a toda la comunidad sobre el contenido del material																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 200.000
3.2.1	Calendarizacion de los talleres a ser realizados																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000
3.2.2	Elaboracion de materiales a ser utilizados en los talleres																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000
3.2.3	Establecer lista de participantes																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000
3.2.4	Realizacion de talleres																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000

PLAN DE OPERACIÓN: 2010 2014

	ACTIVIDADES	CRONOGRAMA																				RESPONSABLE	IMPLEMENTACION	MATERIAL	COSTO	FUENTES DE OBSERVACION
		2011										2012														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
	Implementacion																									
3.3.2	Informe explicativo sobre el material entregado																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	

3.3.3	Distribucion de materiales																					MEC, becarios de JICA	MEC, cooperacion internacional ONG	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4	Capacitacion en la aplicación del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.1	Talleres informativos a los docentes que implementaran el curriculo																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.1.1	Calendarizacion de los talleres a ser realizados																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.1.2	Elaboracion de materiales a ser utilizados en los talleres																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.1.3	Establecer lista de participantes																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.1.4	Realizacion de talleres																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.2	Cursos Teoricos practico en la implementacion del curriculo																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.2.1	Calendarizacion de los talleres a ser realizados																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	

4.2.2	Elaboracion de materiales a ser utilizados en los talleres																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.2.3	Establecer lista de participantes																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
4.2.4	Realizacion de talleres																					MEC, becarios de JICA	MEC, instituciones piloto	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
		CRONOGRAMA																				**RESPONSABLE**	**IMPLEMENTACION**	**MATERIAL**	**COSTO**	**FUENTES DE OBSERVACION**
	ACTIVIDADES	**2013**										**2014**														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10					
	Implementacion																									
5	Aplicacion del curriculo funcional en instituciones dentro del plan piloto																					MEC, becarios de JICA	MEC			
5.1	Seleccion de instituciones llevando a cabo el plan piloto del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	Lista
5.1.1	Monitorear la aplicacion del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
5.1.2	Seguimientode la aplicacion del curriculo funcional																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
5.1.3	Informe a la comunidad educativa de las distintas instituciones seleccionadas(Capital, Central, Interior)																					MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	

5.1.4	Elaboracion de guia de monitoreo																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
5.1.5	Evaluacion del proceso de monitoreo																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
5.2	Observacion en campo de la aplicación del curriculo funcional																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
5.2.1	Calendarizacion de las observaciones de campo de la aplicacion del currilo funcional																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
5.2.2	Elaboracion de la guia de observacion en campo																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
5.2.3	Elaboracion del informe sobre las observaciones de campo																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
6	Evaluacion de la aplicación del curriculo funcional																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
6.1	Elaboracion de una guia de evaluacion del trabajo en campo																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
6.1.1	Elevar informe sobre guia de evaluacion																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	

6.2	Evaluacion del impacto en la comunidad educativa de la aplicación del curriculo funcional																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
6.2.1	Convocatoria a los referntes de la comunidad educativa para evaluar sobre el impacto																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
6.2.2	Recopilacion de informaciones sobre el impacto																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
6.3	Elaboracion de un informe sobre el impacto yo resultado de la aplicaciondel curriculo funcional																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	
6.4	Presentacion del informe de la propuesta a los estamentos pertinentes del piloto a nivel pais																				MEC, becarios de JICA	MEC	utiles de oficina, transporte y alimentacion	Gs. 300000	

GOBIERNO NACIONAL DE LA REPUBLICA DEL ECUADOR

ministerio de educación ECUADOR

PERSONAS CON DISCAPACIDAD

Población con discapacidad en el país
1'608.334 correspondiente al 12,14 % .

Población en edad escolar con discapacidad
De 0 a 19 años total 265.825
Que corresponde:
De 0 a 4 años, 17.835 niños/as.
De 5 a 10 años, 102.600 niños/as .
De 11 a 19 años, 145.388 adolescentes y jóvenes

Educamos para tener Patria

GOBIERNO NACIONAL DE LA REPUBLICA DEL ECUADOR

ministerio de educación ECUADOR

POBLACIÓN ATENDIDA

- 17.778 estudiantes atendidos en instituciones de educación especial.
- 13.300 atendidos en programas y servicios de educación regular.

Educamos para tener Patria

GOBIERNO NACIONAL DE LA REPUBLICA DEL ECUADOR

ministerio de educación ECUADOR

INSTITUCIONES DE EDUCACIÓN ESPECIAL

200 institutos de Educación Especial

109	fiscales	54.4%
14	fiscomisionales	7%
18	municipales	9%
59	particulares	29.5%
80	aulas de estimulación temprana	

Educamos para tener Patria

GOBIERNO NACIONAL DE LA REPUBLICA DEL ECUADOR

ministerio de educación ECUADOR

11 Instituciones, discapacidad visual,	5.%
12 Instituciones, discapacidad motora,	6%.
18 Instituciones, discapacidad auditiva,	9%.
145 Instituciones, discapacidad intelectual (cognitiva),	72.5%
14 Instituciones, varias discapacidades y multiretos, 7%	

Educamos para tener Patria

GOBIERNO NACIONAL DE LA REPUBLICA DEL ECUADOR

ministerio de educación ECUADOR

FORMACION DE DOCENTES EN EDUCACIÓN ESPECIAL

15 Universidades del país ofertan carreras en Educación Especial → Cuatro Años de Estudio, Título de 3er. Nivel

4 Universidades del país ofertan Diplomados, Especialidades y Maestrías en Educación Especial → Dos Años de Estudio, Título de 4to. Nivel

Los Maestros Fiscales Escalafonados de Educación Especial, reciben un 30% adicional de Funcional por el tipo de trabajo que realizan. Cada 4 años deben realizar un curso de capacitación de 120 horas para su Ascenso de Categoría Nominal y Económica.

Educamos para tener Patria

SITUACION ACTUAL

Los docentes no cuentan con suficientes herramientas para desarrollar una práctica educativa coherente con las necesidades educativas especiales de sus estudiantes lo cual influye en la calidad de los aprendizajes

FORTALEZAS DE LA EDUCACION ESPECIAL EN JAPON

ORGANIZACION INSTITUCIONAL SOLIDA

INFRAESTRUCTURA ADAPTADA

RECURSOS HUMANOS

MATERIALES ELABORADOS DE ACUERDO A LAS NECESIDADES DE LOS ESTUDIANTES

CUMPLIMIENTO DE LA NORMATIVA LEGAL

DISCIPLINA

CAPACITACION DOCENTE PERMANENTE

EDUCACION CENTRADA EN EL APRENDIZAJE

MOTIVACION DEL DOCENTE PARA MEJORAR SU PRACTICA EDUCATIVA

FORTALEZAS DE LA EDUCACION EN EL INSTITUTO FISCAL DE DISCAPACIDAD MOTRIZ

DISPOSICION PARA APRENDER E INNOVAR

RESPETO AL ALUMNO

GESTION INSTITUCIONAL SOSTENIDA

APOYO DE LA COMUNIDAD

MAESTROS COMPROMETIDOS Y CON VOCACION DE SERVICIO

PLAN DE ACCION

OBJETIVO

Implementar la "CLASE ABIERTA" como una estrategia de fortalecimiento del Currículo Ecológico Funcional en el Instituto Fiscal de Discapacidad Motriz

QUE ES EL CURRICULO ECOLOGICO FUNCIONAL

ES UN MODELO BASADO EN LAS NECESIDADES ACTUALES Y FUTURAS DEL ALUMNO, DETERMINADO POR UNA EVALUACION FUNCIONAL Y DISEÑADO PARA DESARROLLAR CAPACIDADES Y COMPETENCIAS PARA LA VIDA.

CAPACITACION DOCENTE

- Sistematización de la Capacitación en JAPÓN
- Currículo Ecológico Funcional
- Elaboración de Material Didáctico
- Sistemas Alternativos y Aumentativos de Comunicación

CLASE ABIERTA
EXPLICACION DE LA METODOLOGIA DE TRABAJO DE CLASE ABIERTA
ELABORACION DE INSTRUMENTOS PARA EL DESARROLLO Y EVALUACION DE LA CLASE ABIERTA
PLANIFICACION DEL TEMA DE LA CLASE ABIERTA

APLICACION DEL CURRICULO ECOLOGICO FUNCIONAL
PLAN ESTRATEGICO INSTITUCIONAL
PLAN DE APOYO INDIVIDUAL
PLAN DE ORIENTACION INDIVIDUAL
ORIENTACION A PADRES
FORTALECIMIENTO DEL EQUIPO COLABORATIVO

RECURSOS HUMANOS
•PERSONAL DIRECTIVO TECNICO Y DOCENTE
• ALUMNOS
• PADRES DE FAMILIA
• EXPERTO DEL MEC EN C. FUNCIONAL
RECURSOS MATERIALES
• EQUIPOS Y SUMINISTROS DE OFICINA
• MATERIAL IMPRESO (JAPON)
• CARTELES
• MATERIAL DE RECICLAJE
RECURSOS ECONOMICOS
5400 DOLARES
APOYO DEL MEC
GESTION INSTITUCIONAL
APROVECHAMIENTO Y OPTIMIZACION DE LA CAPACIDAD HUMANA Y MATERIAL INSTALADADA

REALIZADO POR:
MIRIAM GALLEGOS
CECILIA CASTRO
MARIA AUGUSTA GOMEZ

ministerio de educación ECUADOR

EDUCAMOS PARA TENER PATRIA

PLAN DE OPERACIÓN:
2010 2012

N.-	ACTIVIDADES	CRONOGRAMA																												RESPONBLE	BENEFICIARIOS	MATERIAL	COSTO	Fuentes de verificación
		2009		2010									2011									2012												
		11	12	1	2	3	4	5	6	8	9	10	1	2	3	4	5	6	8	9	10	1	2	3	4	5	6	8	9	10					
1	Programa de capacitación																																		evaluación de impacto
1.1	Socialización experiencia Japón																																		reporte del curso
1.1.1	Revisión y organización de material																														Participantes JICA, ME	docentes y técnicos INSFIDIM, directores de otras escuelas, técnicos provinciales	material de Japón	100	
1.1.2	Programación de la capacitación																														Participantes JICA	docentes y técnicos INSFIDIM	equipos y suministros de oficina	100	
1.1.3	Desarrollo del taller																														Participantes JICA	docentes y técnicos INSFIDIM	refrigerios, suministro de oficina, equipos	50	
1.2	curso currículo funcional																																		reporte del curso y material didactico elaborado, fotos video. Reporte supervisor

1..2.1	programación capacitación																														División Nacional EE	docentes y técnicos INSFIDIM, directores de otras escuelas, técnicos provinciales	suministros y equipos de oficina	100	
1.2.2	desarrollo del taller																														División Nacional	docentes y técnicos INSFIDIM, directores de otras escuelas, técnicos provinciales	refrigerios, suministro de oficina, equipos	100	
1.3	CAPACITACION SOBRE AULA ABIERTA																																	Planificar la ejecución de un Aula Abierta para el mes de junio
1.3.1	programación del taller																														participantes JICA	docentes y técnicos del INSFIDIM	suministros de oficina, guía de materiales didácticos	100	
1.3.2	desarrollo del taller																														participantes JICA	docentes y técnicos del INSFIDIM	refrigerios, suministro de oficina, equipos, materiales varios	300	
1.3.3	Planificación e instrumentación de un Aula Abierta																														docentes y técnicos del INSFIDIM	docentes y técnicos del INSFIDIM	refrigerios, suministro de oficina, equipos, materiales varios	300	
1.3.	Aplicación de la estrategia de Aula Abierta																														docentes y técnicos del INSFIDIM	docentes y técnicos del INSFIDIM	suministros de oficina, guía de materiales didácticos	0	
1.3	CURSO ELABORACIÓN MATERIAL DIDACTICO																																	reporte del curso y material didactico elaborado, fotos vídeo. Reporte del departamento
1.3.1	programación del taller																														participantes JICA	docentes y técnicos del INSFIDIM	suministros de oficina, guía de materiales didácticos	100	
1.3.2	recolección del material de reciclaje																														participantes JICA	docentes y técnicos del INSFIDIM	tarros de basura para recolección de material	50	

1.3.3	desarrollo del taller																													participantes JICA	docentes y té cnicos del INSFIDIM	refrigerios, suministro de oficina, equipos, materiales varios	300	
1.4.4	programación capacitació n																													participante JICA (1)	estudiantes docentes y té cnicos y padres de familia	computadora, impresora	50	
1.4.5	Ejecución de capacitación																													participante JICA (1)	estudiantes docentes y té cnicos y padres de familia	material elaborado, emplasticadora, acetatos, suministros de oficinas y equipos tecnológicos	200	

<Action Plan>

Duration:

Purpose(s)	**Capacitar y apoyar la formación de docentes en NEE de la E.S.F.M. Dr. M.A.V. en la localidad de Paracaya.**
Activities	**1. Motivar a la comunidad para especializarse en NEE.** **1-1Difusion y debate de las experiencias adquiridas en Japón.** **1.1.1 Reunión y entrega de informe a las autoridades.** **1.1.2 Preparación de Documentos y materiales para la difusión de experiencias a estudiantes y docentes.** **1.1.3 Preparación de Documentos y materiales para la difusión de experiencias al centro de Educación especial.** **1-2 Crear un Equipo de Apoyo** **1.2.1 Elaboración y entrega de invitaciones** **1-3 Campaña de concientización y apoyo** **1.3.1 Elaboración materiales** **1-4 Feria Pedagógica abierta a la comunidad.** **1.4.1 Preparación de los estudiantes para participar.** **1.4.2 Elaboración de materiales para participar** **1.4.3 Invitación publica a las autoridades y comunidades aledañas**
	2. Capacitar y formar docentes para el trabajo en NEE **2-1 Creación de una red de apoyo (dirección académica, docentes , estudiantes, y otros especialistas)** **2.1.1 Invitación a autoridades, docentes y**

	especialistas **2.1.2 Puesta en común de las propuestas por parte de los equipos de cada curso: dirección, técnicos directivos y profesionales de la institución.** **2.1.3 Elaboración de un rol de actividades para una gestión.** **2.1.4 Formalizar la alianza con la Escuela de educación Especial, para mejorar la escuela y a futuro masificar la experiencia en otras escuelas.** **2.1.5 Establecer Vínculos con Jica.** **2.16 Promover el intercambio de experiencias con ex becarios de Chile, Ecuador, Paraguay y Bolivia.** **2-2 talleres para la elaboración de materiales didácticos, adecuado a las NEE.** **2-3 cursos de capacitación para mejorar las estrategias metodológicas en NEE.**
	3. Preparación de la E.S.F.M. para la apertura de la carrera Educación en NEE. **3-1 Talleres de Capacitación** **3.1.1Jornadas de debate** **3-2 trabajar en un currículo acorde a las NEE** **3.2.1 Socialización en la ESFM.** **3-3 Propuesta final socializada a nivel Nacional.**

Name: Fatima Rojas, Jose Duarte, Debora Godoy
Country: Paraguay
Organization Ministerio de Educacion y Cultura.
Your Position Tecnica , Director de Escuela, Maestra de Necesidades Educativas Especiles.

< Plan de Accion>

Duration: 3 años

META: MEJORAR LA CALIDAD EDUCATIVA EN EL AREA DE LA DISCAPACIDAD INTELECTUAL

Objetivos	**Mejorar la practica docente apuntando a un currículo ecológico funcional con la aplicación de la clase abierta.**
Actividades	**1. Elaboración del currículo funcional conforme al desarrollo evolutivo.** 1-1Conformacion de un Equipo para la elaboración del currículo. 1-2-Análisis de contenido a ser incluidos. 1-3- Elaborar la propuesta de un currículo ecológico funcional tomando en cuenta las practicas observadas en el modelo de instrucción impartido en Japón.
	2. Validación del currículo ecológico funcional en los estamentos correspondientes. 2-1- Elevar la propuesta a la Dirección General de

	Educación Inclusiva. 2-2- Seguimiento en las instancia superiores correspondientes
	3. Difusión del currículo funcional. 3-1- Lanzamiento oficial del Currículo Funcional 3-2- Talleres Informativos a toda la comunidad sobre el contendido del material. 3-3—Entrega de materiales a Instituciones del piloto **4- Capacitación en la aplicación del currículo funcional**. 4-1- Talleres informativos a los docentes que implementaran el Currículo (piloto) 4-2- Cursos teóricos prácticos en la implementación del currículo. 4-3- Capacitar a los docentes a través del modelo de clase abierta. **5- Aplicación del currículo funcional.** 5-1- Selección de Institución/s que aplicaran el currículo funcional 5-2- Observación en campo de la aplicación. **6-Evaluación de la aplicación del currículo funcional.** 6-1- Elaborar una guía de evaluación del trabajo en campo 6-2- Evaluar el impacto en la población de la aplicación del Currículo Funcional. 6-3- Elaborar un informe sobre el impacto y/o resultado de la aplicación del Currículo Funcional 6-4- Presentación del informe de propuesta a los

	estamentos pertinentes de la implementación del piloto para su aplicación a Nivel país **7- Implementación de clase abierta para mejorar la practica docente.** 7-1- Compartir las experiencias adquiridas en Japón en cuanto a la sistematización de un plan individual. 7-2- Actualizar a los maestro en la aplicación sistemática del plan individual apuntando hacia un currículo ecológico funcional 7-3- Elaboración de materiales adecuados para el trabajo individual tomando en cuenta las herramientas adquiridas en Japón sobre este tema. 7-4- Elaborar guías para la ejecución de la clase abierta 7-5- Ejecución de la clase abierta entre los docentes de la institución. .

OBSERVACION: El presente Plan de Acción es el elaborado inicialmente en Japón con algunas modificaciones ya de las experiencias adquiridas en Chile, se seguirán realizando ajustes del mismo en colaboración conjunta con los ex becarios y sugerencias de Técnicos de la Dirección según sea necesario.
* La parte pintada en verde es lo que se le modifico después de la experiencia en chile.

平成 22 年 7 月 23 日
JICA 筑波　研修業務・市民参加協力課

平成 22 年度地域別研修「南米地域　特別支援教育」
アクションプラン進捗発表会ＴＶ会議　議事録

1. 日時

日本時間　平成 22 年 7 月 23 日（金）午前 8:15～10:20

2. 出席者

(1) 平成 21 年度研修員

ボリビア・・・・・・・Ms. ROCHA HURTADO Delia Ana（アナ）

エクアドル・・・・・・Ms. GALLEGOS NAVAS Miriam Mariana de Jesus（ミリアム）

Ms. GOMEZ LEDESMA Maria Augusta（マリア）

Ms. CASTRO LLANES Cecilia Tarjelia（セシリア）

パラグアイ・・・・・・Ms. ROJAS BENEGAS Maria Fatima（ファティマ）

Mr. DUARTE CORONEL Jose Antonio（ホセ）

Ms. GODOY DAVID Debora Lorena（デボラ）

(2) 筑波大学特別支援教育研究センター　野村勝彦教諭、城戸宏則教諭

(3) JICA ボリビア事務所　Mr.VARGAS Wlifredo

(4) JICA エクアドル支所　篠崎尚子企画調査員、Ms. POZO Jeanette

(5) JICAパラグアイ事務所　Ms. PONILLAUX Mirian、林りさ研修分野担当、
山岡　靖代　ボランティア調整員（教育分野）

(6)人間開発部　前田佳代子職員、古川顕Ｊｒ専門員

(7) JICA 筑波研修業務・市民参加協力課　佐藤和明課長、甲田小百合職員、田中千鶴専門嘱託

(8) 研修監理員　堀川典子

(9)平成 22 年度研修員（オブザーバー参加）

エクアドル・・・・・・Ms. ALVARADO LLIVE Elsa Giovanna

Mr. PASPUEL CERNA Eduardo

Mr. FLORES MEDIAVILLA Jaime Roberto

パラグアイ・・・・・Ms. GONZALEZ de GOMEZ, Blanca Maria Beatriz

Ms. ACOSTA de NUÑEZ, Justina Graciela

Ms. ORTIZ de DIAZ de BEDOYA, Maria Elvira

3. 目的

(1) 平成 21 年度研修員：本邦研修で計画したアクションプランの進捗状況を発表しあい、それぞれの活動の長所と課題を共有し、今後の活動につなげていく。

(2) 平成 22 年度研修員：平成 21 年度研修員のアクションプランの進捗状況及びアクションプランの実施にあたり抱えている課題を把握し、本邦研修中に学ぶべきポイントを考える。

4. 内容（司会進行：甲田）

(1) 趣旨説明（佐藤課長）

(2) 平成 21 年度研修員　アクションプランの進捗状況発表及び質疑応答（各国研修員）

＊各国とも５月末に提出済みのファイナルレポートをもとに発表。

ア.　　エクアドル

(ア)発表要旨

●セシリア：機能的カリキュラム強化戦略としての公開授業を目指し、これまでに 5 回のワークショップを実施。結果、INSFIDIM[1]教員の児童に対する指導の向上が成果として見え始めた。それぞれの教員が公開授業を通じて互いの連携を強めている。教育省の働きかけにより、今後教員数が増加することにも期待が持てる。

●ミリアム：教育省スタッフを対象としたワークショップを実施した結果、17 名がワークショップに参加。日本映画「どんぐりの家」を 3 回上映した結果、いずれも好評だった。

(イ)質疑応答要旨

●野村教諭：個別指導計画と公開授業の関係は？（個々の生徒への指導と集団への指導がどうつながっているのか？）

⇒マリア：個別指導計画をすべてのクラスに導入していきたいと考えている。それぞれの生徒に焦点をあて、個々の生徒のニーズにあった授業を計画することが重要と考えている。

●城戸教諭：発表を聞き、テーマ別の公開授業が効果的とわかった。各公開授業のテーマが、「個別指導計画」や「教材開発」など、それぞれ重いテーマとなっているが、今後、これらのテーマのモデル校を設置するなどの予定はあるか？

⇒マリア：現在までに行った公開授業はいずれも INSFIDIM で実施。今後も公開授業を引き続き展開し、新任教師にも広めていきたいと考えている。今年は、まず INSFIDIM の教員が公開授業の手法に慣れることを目標としたい。なお、ワークショップ等を通じて日本での研修経験を伝えた各学校関係者は、いずれも公開授業に非常に意欲的である。

⇒甲田：今後、公開授業を展開するにあたり、INSFIDIM 内での展開を考えているのか、それとも他校への波及も考えているか？

⇒ミリアム:1 校～2 校選出し、公開授業を広げていきたいと考えている。教員養成課程の創設、中でも特別支援教育の重視といった流れがあり、このようなエクアドルの現状も追い風となっている。

イ.　　パラグアイ

(ア)発表要旨

●ファティマ：11～12 月にかけてアクションプランを見直し修正した。知的障害分野の質の改善を目指しつつも、聴覚障害や視覚障害なども含めて機能的カリキュラムを導入することを目指している。カリキュラム作業チームを制定し、機能的カリキュラム作成のための打合せを実施し、草案を作成中。本来は、各部局からの参加を予定していたが、それは難しく、結果的に特別支援

[1] 運動障害協会（セシリア・マリアの所属先）

教育局内で作業を進めることになった。デボラ・ホセの校内で公開授業を実施する際、教育省として協力をしている。今年度の研修員には、日本の教育モデルをよく観察し、アクションプランの改善につなげてもらいたいと願っている。

●ホセ：自閉症や重複障害のある生徒を対象として、7 月から第 1 回目の公開授業を開始した（あと２回実施予定)。自校の教員には、公開授業を通じて授業の見方や概念を指導している。質の高い教員がいるため、アクションプランの継続的実施は可能。

●デボラ：6 月 10 日を皮切りとして、今後も週 1 回のペースで公開授業を実施予定。言語やコミュニケーションを中心としたテーマで実施する予定。

(イ)質疑応答要旨

●城戸教諭：機能的カリキュラムの作成に対する公開授業の役割は？

⇒ファティマ：デボラの学校では、算数やコミュニケーションを主なテーマとして機能的カリキュラムを適用しており、全国的に波及させていきたいと考えている。

●野村教諭：知的障害を中心とし他の障害分野も含めて機能的カリキュラムを作成しているとのことだが、機能的カリキュラムの中に各分野が包含されるのか、あるいは各分野に対し機能的カリキュラムがそれぞれ作成されるのか？

⇒ファティマ：後者が該当する。

●古川 Jr 専門員：これまでの自身の経験をふまえると、中南米地域で公開授業を実施すると、教員からの反発が生じることが多いのだが、公開授業の自国での導入にあたり、教員からの反発はなかったか？また、公開授業の実践者としてどのような教員を選んだか？

⇒デボラ：まずは自身が公開授業を実施した。最初は周囲の教員は疑い深く自分の授業を見ていたが、今年になってからかなり周囲の教員の反応が良くなったと感じている。実際、次回以降の公開授業実践者を募ったところ、大勢が応募した。

⇒ホセ：公開授業に対しては、最初から周囲の教員は受入れる雰囲気があった。デボラの公開授業の様子を自身の学校の教員にも見学させ、公開授業実施希望者を募ったところ、多くが応募。最初の実践者は、校内でも経験豊かな教員を選出した。

⇒古川 Jr 専門員：周囲の理解を得るにあたり、デボラさんの公開授業のやり方がとても上手だったことが想像できる。

ウ.　　ボリビア

(ア)発表要旨

●アナ：日本で得た経験の普及活動を実施した結果、校内の学生に非常に高く評価された。参加者の関心を高めるよう、教員と学生で構成された支援チームを設置した。地域の特別支援教育に対する理解を深めることを目的として教育フェアを実施した。地域内に障害者が多いため、地域の住民の関心度が高かった。教員の研修・養成を目的として、支援ネットワークを形成した。このネットワークにはリハビリテーションセンター (CREVA) 所長や心理学者などが参加。Dr.Manuel Ascencio Villaroel[2]は教員養成機関ではあるが、特別支援教育を専門とした教員はいないため、このネットワークの形成が所属組織内の専門性の強化につながることが期待される。今後は、特別支援教育課程の開設に向け準備を進めていく予定。

[2] アナが所属する教員養成学校名

(イ)質疑応答要旨

●野村教諭：地域での教育フェアに障害を持つ子どもの父兄が参加することでどのような変化が見られたか？

⇒アナ：父兄は、どこで支援を受けられるか、今後何をすべきかといった質問を熱心に投げかけていた。また、教材を展示していたため、教材への理解も深まったようである。さらには、子どもを学校に行かせることのモチベーションが高まった様子。事実、CREVA の入学率が 15%上昇したと聞いている（83 名入学)。

●城戸教諭：発表を聞き、支援ネットワークが計画的に活動していることがわかった。支援ネットワークの構成メンバーと具体的活動内容、及び支援ネットワークと教員養成の関係につき教えてほしい。

⇒アナ：支援チームには、インクルーシブ教育の専門家、心理学者、大学生ボランティアなどが参加。

支援チームの中の専門家は、そのまま大学での教員養成のメンバーになっている。支援ネットワークの中で学生と実践的な活動しながら、養成校でも講義をする形態を目指している。

(3) 平成 22 年度研修員との連携について（田中専門嘱託）

田中専門嘱託：平成 22 年度の研修員と具体的にどのような連携が可能と考えるか？

ア.　　エクアドル

ミリアム：教育省が軸となり、公開授業の波及・拡大、機能的カリキュラムの充実等、アクションプランの継続的実施が重要と考えている。

イ.　　パラグアイ

ブランカ：すでに平成 21 年度及び平成 22 年度の研修員のネットワークは形成されている。ホセやデボラと連携し、活動を強化していきたい。

⇒田中専門嘱託:教育省が情報を提供し、各校の公開授業を見せ合うなどできるといいのでは。

以上

INFORME FINAL

EDUCACION EN NECESIDADES EDUCATIVAS ESPECIALES PARA LA REGION DE SUDAMERICA

TITULO DEL INFORME
La Clase Abierta como una Estrategia de Fortalecimiento del Currículo Funcional.

FECHA DE ENTREGA
31 de mayo 2010

PAIS
Ecuador

NOMBRE DE LOS PARTICIPANTES
Cecilia Castro
María Augusta Gómez
Miryam Gallegos

PROPUESTA DEL PLAN DE ACCION

Implementar la Clase Abierta como una estrategia de fortalecimiento de un Currículo Funcional en el Instituto Fiscal de Discapacidad Motriz de Quito-Ecuador. En razón de que el Currículo mencionado es susceptible de ser aplicado con niños de ciertas características de "funcionalidad", se procuró la participación de los niveles de alumnos con estas características.

Entendido el Currículo Funcional como un modelo basado en las necesidades del alumno; diseñado para desarrollar capacidades y **competencias para la vida**, se consideró la importancia de implementar en la Institución nuevas metodologías que fortalezcan el trabajo pedagógico con el propósito de mejorar la calidad de los procesos educativos.

En resumen el Plan de Acción presentado por Ecuador busca utilizar el AULA ABIERTA como una estrategia válida para socializar entre los maestros, los cambios que en base al Currículo Funcional y a las nuevas metodologías a implementarse en la Institución se puedan mejorar la calidad de la educación que se brinda a los alumnos. Las nuevas metodologías a implementarse son: Lectura Funcional (Método "Palabra más palabra"), Matemática Funcional, Sistema de Comunicación alternativa PECs; además de nuevas estrategias de acción del maestro en lo referente a como elaborar material

didáctico de manera fácil, funcional y en concordancia con la necesidad de sus alumnos; implementación del Plan de Orientación y de Apoyo individual; Agenda visual o de anticipación de actividades de la jornada escolar, Actividades de inicio de la jornada diaria como calendario, estado del tiempo, noticia y conversación . Debido a que dentro de la Institución estas acciones son nuevas.

La aplicación de cada una de estas metodologías utilizó la estrategia de AULA ABIERTA como un apoyo y retroalimentación de las Maestras participantes en el programa.

La lectura desempeña una función importante en la vida diaria y contribuye al enriquecimiento del bagaje lingüístico.

La matemática funcional es importante en tanto que posibilita una mayor independencia en la vida cotidiana y la relación con el mundo social por la aplicación de conceptos numéricos de base en la actividad diaria.

Por tanto es menester que la escuela abra los espacios y cree los contextos necesarios para que alumnos y alumnas "aprendan competencias para la vida", como a leer en forma global palabras significativas para cada uno de ellos, hacer cuentas simples y manejar dinero, ubicarse en el tiempo y espacio, comunicarse de forma comprensible con los demás en situaciones reales.

Es importante considerar que, del criterio que tengamos sobre lo que se entiende por leer en forma funcional, dependerá el modo de enseñar y de evaluar estos aprendizajes, "leer es comprender y recrear significados de un código escrito, relacionándolos con experiencias y conocimientos anteriores".

Consideramos que estas actividades van a posibilitar un crecimiento cualitativo y cuantitativo en el alumno, en tanto va a crecer su nivel de actuación y comunicación en su medio inmediato.

RESULTADO DE LA IMPLEMENTACION

Para la implementación del Plan de Acción se realizó las siguientes actividades:

- Socialización de la capacitación recibida en Japón.
- Aplicación e instrumentación del Aula Abierta como apoyo a la adaptación del Método "Palabra más palabra" de lectura funcional, afianzamiento de actividades iniciales y en matemática funcional.
- Uso de sistemas alternativos y aumentativos de comunicación. PECs.
- Elaboración de material didáctico.
- Curso de Currículo con enfoque ecológico funcional.
- Elaboración de la propuesta de la carrera en educación especial

1.- Socialización de la Capacitación recibida en Japón

1.1 Actividades desarrolladas al interior del Instituto Fiscal de Discapacidad Motriz

Se desarrolló en tres jornadas: 19, 20 de noviembre de 2009 y 8 de enero de 2010 con la asistencia en las primeras jornadas de un delegado del Ministerio de Educación, Dra. Magdalena Vieira, el Jefe del Departamento Provincial de Educación Especial, Dr. Jorge Román; y, todo el personal Directivo, docente y técnico de la Institución; en total 17 personas. La temática desarrollada fue:

- Generalidades del Sistema Educativo Japonés
- Generalidades de la Educación Especial en Japón
- Atención a la Discapacidad Auditiva
- Atención a la Discapacidad Intelectiva
- Atención al Autismo
- Atención a la Discapacidad Física
- Atención a la Discapacidad Visual
- Escuelas hospitalarias
- Plan de Orientación Individual y Plan de Apoyo Educativo
  La Casa de las Bellotas a las estudiantes de la Universidad del Azuay

1.2 Actividades de socialización realizadas desde el Ministerio de Educación:

- 1 Taller de socialización de la experiencia en Japón a todos los funcionarios de la División Nacional de Educación Especial.
  A esta actividad asistieron 17 funcionarios del Ministerio que laboran en la División Nacional de Educación Especial, la temática abordada fue:
  El sistema de educación especial japonés
  Organización de los servicios de educación especial,
  Principales características del currículo en educación especial.
  Perfil de los docentes
  La clase abierta
  Análisis comparativo del sistema de educación japonés y ecuatoriano
  Video foro de la película la Casa de las Bellotas.
  IMPACTOS
  Influencia de lo aprendido en los diferentes proyectos que desarrollo el ministerio de educación.
- 1 Taller de socialización de la experiencia y video foro La Casa de las Bellotas.
- 1 Taller de socialización a la Comisión Técnica del Consejo Nacional de Discapacidades y la Mesa de Inserción Laboral.

2.- Aplicación e instrumentación del Aula Abierta

Una vez instrumentada la estrategia de Aula Abierta, mediante un formato para su Planificación y otro para el registro de las impresiones de los asistentes, se procedió a su realización con diferente temática en las fechas que a continuación se detallan:

Fecha	Clase Observada	Aula en la que se realizó	Moderadora
16-01-2010	Actividades Iniciales	Talleres (Norma De la Torre)	Ma. Augusta Gómez
22-01-2010	Actividades Iniciales	Talleres (Norma De la Torre)	Ma. Augusta Gómez
01-02-2010	Actividades iniciales	Nivel 2 Funcional (Sandra Caicedo)	Ma. Augusta Gómez
17-03-2010	Actividades Iniciales	Nivel 4 Funcional (Sara Ramos)	Cecilia Castro
05-05-2010	Matemática Funcional	Talleres (Norma De la Torre)	Cecilia Castro

3.- Aplicación y Uso de Sistemas Alternativos de Comunicación PECs

Para el desarrollo de esta temática, en el mes de marzo, todo el personal de la Institución preparó una parte de cada fase de aplicación y uso de los sistemas de comunicación ALTERNATIVOS es decir, estilos de comunicación que no involucren el habla. Este método de Intercambio de Imágenes se adquiere muy rápidamente; muchos niños aprenden el intercambio fundamental en el primer día de entrenamiento. Un aspecto importante del PECs es que los niños son los iniciadores pues ya no dependen de los adultos para comunicarse. Con estas imágenes, expresan sus necesidades a los adultos quienes pueden satisfacerlas. Durante el mes de marzo se reunió a los padres de 9 niños de la institución cuya característica común era la falta de lenguaje oral como consecuencia de una parálisis cerebral y que les impedía poder interactuar con sus pares: en esta reunión se explicó a los padres el uso de los PECS, su elaboración y compromiso para poder aplicarlo con sus hijos. Durante el mes de abril, Terapia de Lenguaje, elaboró los Pecs, de los alumnos y actualmente están siendo entrenados y están utilizando este sistema en la Institución.

4.- Elaboración de Material Didáctico

Con el fin de facilitar el trabajo de las maestras en la aplicación de las nuevas metodologías de educación funcional, se orientó para la elaboración de diferente material didáctico que atiendan a las necesidades y motivaciones individuales de cada alumno, que sea pertinente, concreto, significativo, seguro, atractivo y que permita mantener la atención y motivación de manera sostenida; pasando de los elementos reales a su representación en imágenes y fotos, y, luego a su representación gráfica simbólica.

La mediación eficiente del aprendizaje, ocurre cuando una persona con mayor experiencia, como el profesor selecciona, transforma, reordena u organiza ciertos estímulos, destacando algunas de sus características y haciéndolos más accesibles al estudiante, con una meta o propósito específico. Para este fin, se llevó a cabo un

concurso interno de elaboración de material didáctico con productos de reciclaje, destacando una muy buena acogida por parte de los docentes.

5.- Taller de Currículo Funcional

Este taller se lo realizó en el Ministerio de Educación, del 7 al 9 de Abril, con la participación de todos los docentes del INSFIDIM, más representantes de otras instituciones de la ciudad de Quito, total 28 personas.

PARTICIPANTES	INSTITUCIÓN
15 PROFESORES, TÉCNICOS, DIRECTIVOS	INSTITUTO FISCAL DE DISCAPACIDAD MOTRIZ
1 VICERRECTORA	INSTITUTO FISCAL DE SORDOS ENRIQUETA SANTILLÁN
1 TERAPISTA OCUPACIONAL	INSTITUTO NACIONAL DE AUDICIÓN Y LENGUAJE
1 VICERRECTORA	INSTITUTO FISCAL DE EDUCACIÓN ESPECIAL (DISCAPACIDAD INTELECTUAL)
1 PROFESORA	INSTITUTO DE EDUCACIÓN ESPECIAL DEL NORTE
1 COORDINADOR TECNICO	CENTRO AUDITIVO ORAL
1 PROFESORES	FUDEIN
3 PROFESORES	FUNAPACE
1 PROFESORA	IEPNI (INSTITUTO EDUATIVO Y SICOTERAPEUTICO DEL NIÑO)
2 PROFESORAS	EFEER

Contenidos abordados:

- Fundamentos y alcances de la aplicación del currículo con enfoque ecológico funcional
- El equipo colaborativo
- La planificación centrada en la persona
- Estrategias de atención a estudiantes con multidiscapacidad Mapeo, calendarios, organización escolar.

El 100% de los participantes informaron en la evaluación que los contenidos recibidos son de mucha utilidad para su trabajo diario, y ayudan a mejorar su práctica docente.

6.- Elaboración de la propuesta de Formación Inicial de Docentes de Educación Especial

El proyecto de creación de la carrera de Educación Especial en la Universidad Politécnica Salesiana se encuentra terminado, para la revisión de las autoridades de la Universidad en el cuerpo del mismo se han incluido elementos de lo aprendido en Japón que son muy importantes tomarlos en cuenta para que los nuevos docentes tengan una formación integral.

PUNTO MÁS IMPORTANTE PARA EL LOGRO DEL PLAN

La implementación del Plan de Acción del Ecuador en el Instituto Fiscal de Discapacidad Motriz, ha permitido considerar el Aula Abierta como una herramienta muy eficaz para que cada maestra vaya haciendo los cambios que en la plenaria se fueron sugiriendo, y que redundaron en una mejor ejecución de las metodologías.

La participación de las Maestras de los Niveles Funcionales y del Taller ha sido muy importante, el interés y ahínco con que han trabajado para implementar las nuevas metodologías ha superado con creces las expectativas de las becarias de JICA.

Lo planificado para este año lectivo, se ha llevado a cabo.

El Ministerio ha aumentado la planta de docentes de la institución para brindar una mayor cobertura y mejorar la calidad del servicio.

DIFICULTADES ENFRENTADAS PARA LA CONSECUCION DEL PLAN

- La búsqueda de espacios de tiempo dentro del cronograma institucional para la aplicación del Plan.
- Se vio la necesidad de flexibilizar el Plan de Acción como adelantar o retrasar algunas fechas de capacitaciones debido a diversas circunstancias como importancia del tema para ese determinado momento y en otros casos dificultad en acomodar las fechas dentro del cronograma institucional.

◆ Actividad 1 ●●●●● Programa de Capacitación			
Sub-actividad	**Planificación original**	**Implementación**	**Nota**
1 Socialización de la experiencia en Japón	Noviembre y diciembre 2009	Noviembre y diciembre 2009	Se desarrolló el taller en las fechas previstas
2 Curso Currículo Funcional	Enero 2010	Abril 2010	Fue organizado por la becaria Miryam Gallegos y la División Nacional de Educación Especial
3 Capacitación sobre Aula Abierta	Marzo, abril, mayo y junio 2010	Enero, febrero, marzo, abril, mayo 2010	Se adelantó la fecha de capacitación e implementación porque era una muy buena estrategia para ir evaluando y retroalimentando nuevas metodologías de Currículo Funcional.
4 Curso de elaboración de	Marzo 2010	Desde diciembre 2009 hasta la fecha	Se orientó a las maestras en la elaboración de

material didáctico			material para la aplicación de nuevas metodologías, se continúa elaborando material didáctico en forma continua.
5 Curso de sistemas alternativos de comunicación	De noviembre 2009 a marzo de 2010	Se inició con la investigación en noviembre. Se ejecutó el taller en marzo 2010. Actualmente se está utilizando el método con varios alumnos.	Ya se está aplicando su uso con 9 alumnos con dificultades severas en el lenguaje hablado.
◆ Actividad 2 ●●●●● Aplicación del Currículo Funcional			
Sub-actividad	**Planificación original**	**Implementación**	**Nota**
1 Creación de un equipo de apoyo	Desde noviembre 2009 hasta finalizar plan	Transformación de Equipo multidisciplinario a equipo colaborativo	El nuevo año lectivo se reorientará las funciones de las terapias de apoyo para que trabajen en colaboración directa con los maestros.
2 Elaboración de planes de apoyo individual	De marzo a septiembre de 2010. Se realizó la capacitación sobre el tema en diciembre de 2009	Se implementará en el nuevo año lectivo a partir de septiembre de 2010	La aplicación del Plan se hará el nuevo año lectivo debido a que se necesita recolectar información durante todo este tiempo.
3 Elaboración de Plan de Orientación Individual	Desde febrero 2010 hasta finalizar plan	Se implementará en el nuevo año lectivo a partir de septiembre de 2010.	Se está recolectando información durante todo este tiempo.
4 Orientación a Padres de Familia	Desde enero hasta finalizar plan	Se organizó talleres para padres de los niños de 0 a 5 años. Se está orientando a los padres de los alumnos de niveles funcionales.	Se han ejecutado charlas para padres en el mes de mayo, se inició con los padres de los alumnos de Estimulación Temprana.
5 Sistematización de la experiencia	Desde junio de 2010 hasta finalizar plan	Se elaboró una ficha de registro de logros	Se están recolectando material para documentar la experiencia.

Fortalezas de su Plan de Acción	Debilidades de su Plan de Acción
• **El nivel de colaboración y aceptación de las maestras participantes.** • **Compromiso de los padres con la educación de sus hijos.**	• **Falta de conocimiento de los padres sobre la discapacidad de su hijo.** • **Las nuevas metodologías de aprendizaje implementadas, no son evaluables en forma inmediata.**

Actividades a implementar para solucionar las debilidades del Plan de Acción

- **La falta de conocimiento de los Padres de familia sobre la discapacidad y la forma correcta de abordar la educación y formación de su hijo**.- Es prioritario el realizar un trabajo aunado con ellos, tomando en cuenta que los padres de hoy engendran la sociedad del mañana, es menester que las instituciones motiven y orienten a la familia para su participación y compromiso tanto en la educación como en la formación del niño con discapacidad en **valores sociales y familiares**, en los **planes de vida de sus hijos, independencia personal y social, formación de la autoestima, vida emocional**, y, la importancia de la **comunicación en la familia**. Con este antecedente el INSFIDIM ha planificado instaurar un sistema permanente de orientación y trabajo con padres en las temáticas antes mencionadas.
- **Las nuevas metodologías no son evaluables a corto plazo.-** Para el registro de logros en la implementación de las nuevas metodologías, se ha creado una Ficha en donde los Maestros irán registrando los avances de sus alumnos, de forma que podamos ir evaluando paso a paso y haciendo los correctivos de ser necesario.

PLAN FUTURO

- Seguir aplicando las nuevas metodologías implementadas en los Niveles Funcionales de la Institución
- Trabajar en forma continua con el apoyo de los padres de familia
- Instrumentar la aplicación del Plan de Apoyo Individual y Plan de Orientación individual adaptándolos a la realidad de la población que atendemos.

CONCLUSIONES

- La necesidad de que exista un control y evaluación de las acciones del trabajo educativo constituye una etapa esencial, debe ser un proceso permanente y a todo lo largo de la ejecución del trabajo, por esto el AULA ABIERTA constituye una estrategia válida y efectiva para este objetivo y que nos servirá para mejorar la ejecución de las acciones, su cumplimiento y el análisis de los progresos.
- La eficacia, eficiencia y el impacto del Plan de Acción, requiere de la participación comprometida y decidida de todos los actores involucrados en la educación, siendo la familia un eje primordial y el trabajo con ellos permitirá solucionar de forma permanente varios problemas detectados con los niños y sus familias.

LECCIONES APRENDIDAS

- Dificultad en cambiar el quehacer educativo de todos los maestros de la Institución, en razón de la formación que tiene cada profesional de la educación, sin embargo, con una motivación permanente se lograrán cambios sustanciales en el tiempo.
- La falta de recursos económicos de la Institución, dificulta disponer, elaborar e incrementar diversos materiales que permitirían hacer más eficiente el proceso educativo.

Firma

Certifico que lo señalado corresponde a una descripción correcta y completa de lo mejor de mis conocimientos.

Nombre del Participante	Fecha	Firma del Participante
Miryam Gallegos	**31 de mayo de 2010**	
María Augusta Gómez Ledesma	**31 de mayo de 2010**	
Cecilia Castro Llanes	**31 de mayo de 2010**	Cecilia Castro

最終報告書
南米地域　特別支援教育

報告書のタイトル：
機能的カリキュラム強化戦略としての公開授業
締切日：2010 年 5 月 31 日
国名：エクアドル
研修員名：
セシリア・カストロ
マリア・アウグスタ・ゴメス
ミリアム・ガリェゴ

アクションプランの提案
エクアドル国キトの運動障害協会の機能的カリキュラム強化戦略として公開授業を実施する。このカリキュラムは、ある「機能性」の特徴を持つ児童に適応可能なことから、このような特徴を持つ生徒の参加を図った。
機能的カリキュラムを生徒のニーズに基づくモデルと理解し、才能・生活能力を発達させるために設計して、教育プロセスの改善を目的として教育の仕事を強化するような新しい手法を協会で実施する重要性を考慮した。
エクアドルが提出するアクションプランは、機能的カリキュラムと協会に導入される新手法に基づいて、生徒に与える教育の質を改善できるような変化を教員間で共有するために有効な戦略として公開授業の利用を追及するものである。
導入する新手法とは：機能的読み（「言葉プラス言葉」法）、機能的数学、PECｓ代替コミュニケーション・システム、生徒のニーズに合った、簡単で機能的な教材作製法に関する教師の新しい行動戦略の他、指導計画・個別支援計画の実施、視覚的な年間行事表、あるいは学校での 1 日の活動の事前予定表、スケジュール、時間割、お知らせ、会話等の毎日の日課の開始活動を指し、協会にとっては、このような行動が新しいものである。
このような手法のそれぞれの適用には、この計画に参加する女性教員の支援とフィードバックとして、**公開授業**戦略を使う。
読むことは、毎日の生活にとって重要な機能であり、言語的知識の充実に寄与する。
機能的数学は、日常生活における自立を高め、毎日の活動に根差す数字の概念の適用により社会的世界との関係を可能にすることからも重要である。
そのため、学校がスペースを割き、生徒たちがそれぞれの状況で意味のある言葉を総合的に読み取る、簡単な計算をしてお金を扱う、時間と空間を把握する、

実際の場面で理解できる形で他人とコミュニケーションを取るという「生活能力を学ぶ」ために必要な状況を生み出すことが必要である。
このような学習を教え、評価する方法は、機能的な形で読んで理解することに関して私たちがどのような判断基準を持つかによると考えることが重要である。
「読むことは、経験やこれまでの知識に関連付けて、書かれた記号を理解し、意味を再生すること」
このような活動により、手近な手段で行動し、コミュニケーションを取るレベルが上がることで、生徒の質的、量的成長を可能にすると思われる。

実施の成果

以下の活動は、アクションプランの実施のために行われたものである。

- 日本で受けた研修の共有。
- 機能的読みの「言葉プラス言葉」法、初期活動の確立、機能的数学の適用に対する支援として、公開授業を応用・実行する。
- コミュニケーションの代替、示大法の使用。PECs
- 教材作成。
- 機能的生態学的アプローチのカリキュラム講習会。
- 特別教育課程に関する提議を作成。

1.　日本で受けた研修の共有

1.1　運動障害協会内部で実施した活動：

2009 年 11 月 19 日、20 日、2010 年 1 月 8 日の 3 日間にわたって実施した。2009 年の日程では、教育省の責任者 Dr.マグダレーナ・ヴィエイラ、県特別教育部長 Dr.ホルヘ・ロマン、学校の管理職、教員、技師、計 17 名が参加した。扱った課題は：

- 日本の教育制度の概要
- 日本の特別教育の概要
- 聴覚障害への対応
- 知的障害への対応
- 自閉症への対応
- 身体障害への対応
- 視覚障害への対応
- 院内学級
- 個別指導計画、学習支援計画
  アスアイ大学の学生に対する「どんぐりの家」

1.2　教育省側で実施した共有活動

- 全国特別教育課のスタッフ全員に対する日本の経験の共有のためのワークショップ　１回

  この活動には、全国特別教育課で働く省のスタッフ 17 名が出席した。取り上げられた課題は：

  日本の特別教育制度
  特別教育サービスの組織
  特別教育カリキュラムの主な特徴
  教員のプロフィール
  公開授業
  日本、エクアドルの教育制度の比較分析
  映画「どんぐりの家」によるビデオフォーラム

  影響

  教育省が実施した様々なプロジェクトに学んだことの影響。
- 経験の共有のためのワークショップ１回、ビデオフォーラム「どんぐりの家」
- 全国障害審議会技術委員会、就業事務局に対する共有のためのワークショップ１回

2.　公開授業の適応、実施

公開授業の企画フォーマット、出席者の感想記録用紙を通して戦略が固まると、以下に記した日程で、色々な課題について公開授業を実施した。

日付	参観授業	実施教室	モデレーター
2010.1.16	初期活動	ワークショップ（ノルマ・デ・ラ・トーレ）	マリア・アウグスタ・ゴメス
2010.1.22	初期活動	ワークショップ（ノルマ・デ・ラ・トーレ）	マリア・アウグスタ・ゴメス
2010.2.01	初期活動	機能２年（サンドラ・カルセド）	マリア・アウグスタ・ゴメス
2010.3.17	初期活動	機能４年（サラ・ラモス）	セシリア・カストロ
2010.5.05	機能的数学	ワークショップ（ノルマ・デ・ラ・トーレ）	セシリア・カストロ

3.　代替コミュニケーション・システム PECs の適用、使用

この課題の実施に向け、3 月に協会の全職員が代替コミュニケーション・システム、つまり、言語を含まないコミュニケーションスタイルの適応と使用の各段階の一部を準備した。このイメージ図交換法は、非常に早く習得できる。多く

の生徒が、訓練初日で基本的な交換法を覚える。PEC s で重要な点は、コミュニケーションを取るために大人に頼ることなく、生徒の側から始めることである。このイメージ図により、ニーズを大人に伝え、大人はその要求を満たすことが出来る。3 月中に、脳性麻痺により口頭での言葉が出ず、仲間と交流が出来ない点で共通する 9 人の生徒の父兄を集めた。この会合で父兄に PECs の使用法、その作り方、子弟に対して応用できるような取り決めについて説明した。4 月には、生徒の言語療法、PEC s を作成し、現在は学内でこの方式を訓練、使用している。

4. 教材作成

機能的教育の新手法適応に際し、教員たちの作業を助けるために、各生徒個別のニーズとモチベーションに対応する様々な教材の作製指導を行う。これは、長持ちし、具体的で、意味があり、安全で、面白く、持続的に注意とモチベーションを維持出来るようなもので、実物から、イメージや写真での表現に移り、その後、象徴的な図での表現に移行する。

例えば、教師のようなより多くの経験を持つ人が、目標か特定の意図をもって、ある刺激の特徴を引き出し、生徒がアクセスしやすいものにして、刺激効果のあるものを選び、変換、再編成あるいは組織する時に学習を効果的に伝えることが出来る。このために、リサイクル品で作製した教材の学内コンクールを開催し、教員の間で非常に高い人気を得た。

5. 機能的カリキュラムワークショップ

このワークショップは、教育省で 4 月 7 日から 9 日まで、INSFIDIM の全教員とキト市の他機関の代表の参加を得て、計 28 人で実施した。

参加者	機関
教員、技術者、管理職 15 人	運動障害協会
女性副校長　１人	エンリケ・サンティリャン聾協会
作業療法士　１人	国立聴覚・言語学院
女性副校長　１人	特別教育協会　（知的障害）
女性教師　１人	北部特別教育学院
技術コーディネーター　１人	聴覚・言語センター
教師　１人	FUDEIN　（総合発達基金）
教師３人	FUNAPACE　（国立脳性まひ財団）
女性教師　１人	IEPNI　（少年教育・心理療法院）
女性教師　２人	EFEER（国立特別教育リハビリテーション学校）

内容：
- 機能的生態学に焦点を当てたカリキュラム適応の基礎知識、範囲
- 協働チーム
- 人に重点を置いた計画作成
- 重複障害を持つ学生への対応戦略、マッピング、予定表、学校組織

出席者の 100%が、評価会で受講した内容は、毎日の業務に非常に役立つもので教員としての授業改善の助けになると報告した。

6. 特別教育の教員の初期養成に係る提案の作成

サレジオ会工科大学の特別教育課程設置プロジェクトは終了し、大学当局のプロジェクトの集大成見直しのために日本で学んだ要素が取り入れられた。新任教師が総合的に養成されるよう、これを考慮することが非常に重要である。

計画達成のための最重要点

運動障害協会におけるエクアドルのアクションプランの実施により、公開授業を、各教師が全体会議で推奨された変化を実践していく上で非常に効果的なツールとみなすことが出来、色々な手法の実施が改善された。
機能部門の職員と、ワークショップの女性教師の参加が非常に重要で、新手法導入のために作業を進める関心の深さと熱意は、JICA 研修員の期待を上回って成長するものであった。
今年度授業に予定された項目は、実施された。
省は、対象範囲を広げ、事業の質を改善するために協会の教員数を増加した。

計画実施に直面する問題点

- 計画適用のために協会内の日程の中で時間を見つけること。
- いくつかの研修日を前倒しにしたり遅らせたりとアクションプランに柔軟性をもたせる必要性がみられた。これは、ある時点での課題の重要性や、協会の日程の中で日を取ることが困難というような色々の事情に因るものである。

◆ 活動 1　　研修計画			
下位活動	**原案**	**実施**	**備考**

1　日本における経験の共有	2009 年 11 月、12 月	2009 年 11 月、12 月	予定通りの日にワークショップを開催
2　機能的カリキュラム講習会	2010 年 1 月	2010 年 4 月	ミリアム・ガリェゴ研修員と全国特別教育課が組織した。
3　公開授業に関する研修	2010 年 3 月、4 月、5 月、6 月	2010 年 1 月、2 月、3 月、4 月、5 月	機能的カリキュラムの新手法を評価、フィードバックしながら進めるには非常に良い戦略だったので、研修・実施の日を繰り上げた。
4　教材作製講習会	2010 年 3 月	2009 年 12 月から現在に至る。	新手法適用のための教材作製を女性教員に指導し、継続的に教材作製を続ける。
5　代替コミュニケーション・システム講習会	2009年11月から 2010 年 3 月	11 月に調査から開始。　2010 年 3 月にワークショップ開催。　現在いろいろな生徒にこの方法を使っている。	既に、言葉を話すことに重篤な障害を持つ 9 人の生徒にその使用を適用している。

◆ 活動 2　機能的カリキュラムの適用

活動	原案	実施	備考
1 支援チーム創設	2009年11月から計画終了まで	学際的チームから協働チームへの転換	新授業年度は、教員と直接協力して作業するよう支援療法の機能を再編成する。
2 個別支援計画作成	2010 年 3 月から 9 月まで。2009 年 12 月、この課題に関する研修を実施した。	2010 年 9 月の新学期から実施予定。	この間情報収集が必要なので、計画適用は新学期に行う。
3 個別指導計画作成	2010 年 2 月から計画終了まで	2010 年 9 月以降新学期に導入。	この間情報を収集している。

4 父兄指導	1 月から計画終了まで	0-5 歳児の父兄対象のワークショップを組織した。 機能部門の生徒の父兄を指導している。	5 月に父兄との談話を実施。早期教育の生徒の父兄から開始した。
5 経験の体系化	2010 年の 6 月から計画終了まで	成果記録カードを作成した。	経験を文書化するための資料を収集している。

アクションプランの強み	アクションプランの弱み
● 参加教師たちの協力、受け入れのレベル ● 子弟の教育に関する父兄の決意	● 子弟の障害について父兄の知識不足 ● 導入された新学習法は、すぐには評価出来ない。

アクションプランの弱みを解決するために実施する活動

- **障害、子弟の教育、形成に取り組む正しい形について父兄の知識不足**
  今日の親が明日の社会を作ることを考慮して、父兄と結び付いた仕事を実施することを優先する。学校が、家族の参加と**社会・家族の価値観、子弟の人生計画、個人的・社会的自立、自尊心の形成、情緒面の生活**、また、**家族のコミュニケーション**の重要性に関して、障害児の教育、育成に対する決意にモチベーションを与え、指導することが肝要である。このような背景で、INSFIDIM は上記のテーマについて父兄を指導、共に働く永続的な体制を整えることを計画してきた。
- **新手法は、短期には評価できない。**
  新手法の実施における成果記録のため、教師が生徒の進歩を一歩一歩評価して、必要な場合は修正を出来るような形で記録していくカードを作成する。

今後の計画

- 協会の機能部門に導入された新手法の適用を続ける。
- 父兄の支援を得て継続的に作業する。
- 対象とする人々の実情に合わせて個別支援計画、個別指導計画の適用を実施する。

結論

- 教育の仕事上の行動を管理、評価する必要性は、本質的な段階を構成する。

永続的で全ての業務実施に沿ったプロセスでなければならないので、**公開授業**は、この目的にとって有効で効果的な戦略となり、行動の実施、遂行、進歩の分析を改善するために有用である。

- アクションプランの効果・能率・影響には、教育にかかわるすべての関係者の、確実で、断固とした参加を要する。中でも家族は基本的な軸となり、家族と一緒に働くことで、児童と家族で探りあてた種々の問題を永久的に解決することが出来る。

学んだ教訓

- 協会の、各教員形成の背景から、全教員の教育の仕事を変えることが困難。しかし、モチベーションを与え続けることで、時が経つうちに本質的変化が達成されるものと思う。
- 協会の経済的資源不足から、教育プロセスの効果を向上させるような色々な資材を入手、作製、増やすことが困難。

署名

記載事項が、私の知識の最善の事実を、真正、完璧に記載したものに相違ないことを証明します。

研修員名	日付	研修員の署名
ミリアム・ガリェゴス	2010 年 5 月 31 日	
マリア・アウグスタ・ゴメス・レデスマ	2010 年 5 月 31 日	
セシリア・カストロ・リャネス	2010 年 5 月 31 日	

機能的カリキュラムワークショップの写真
場所：教育省
日付：**2010** 年 **4** 月

1/9

INFORME FINAL

Educación con Necesidades Especiales para los Países de Sudamérica

Mayo 2010

Informe Final

Para el grupo del Curso de Capacitación "Educación con Necesidades Especiales para los Países de Sudamérica"

1. **Título de Informe: "EDUCACION EN NECECIDADES EDUCATIVAS ESPECIALES."**
2. **Fecha de entrega: 24 de mayo de 2010**
3. **País: BOLIVIA**

4. **Nombre(s) Participante(s): DELIA ANA ROCHA HURTADO**

5. **Propuesta de su Plan de Acción: "Capacitar y apoyar la formación de docentes en NEE de la E.S.F.M. Dr. M.A.V. en la localidad de Paracaya."**

Resultado de la implementación

- Por favor, escriba los resultados de la implementación de su Plan de Acción.
- Mencione en la nota, lo que usted piensa es el punto importante para el logro de su plan.
- Indique en la nota, lo que piensa ha sido la razón de las dificultades que enfrentó para conseguir su plan

◆ Actividad 1 MOTIVAR A LA COMUNIDAD PARA ESPECIALIZARSE EN NEE.			
Sub-actividad	**Planificación original**	**Implementación**	**Nota**
1.1 Difusión y debate de las experiencias adquiridas en Japón.	Se realizó de acuerdo a la planificacion original	Fue implementado al retorno de Japon, Los resultados fueron altamente satisfactorios principalmente con los estudiantes.	Un punto importante para el logro de esta actividad fue la motivacion y expectativa por conocer sobre otra cultura. Una de las dificultades por las que se atravesó en la difucion de las experiencias fue reunir a todo el plantel docente, porque a fin de año existían muchas actividades para el cierre de gestion.
1.1.1 Reunión y	De acuerdo a lo	A La llegada de	Sin dificultad.

entrega de informe a las autoridades.	previsto.	Japón.	
1.1.2 Preparación de Documentos y materiales para la difusión de experiencias a estudiantes docentes y a Centro de Educacion Especial.	Se planificó la difusión para Estudiantes, docentes y el Centro de Educación Especial CREVA.	Se realizó la difusión a todos los estudiantes y docentes de la Escuela superior de formación Docente Dr. Manuel Ascencio Villarroel. La difusión al Centro de Educación especial se efectúo a nivel directivo, quedando pendiente un taller con los docentes.	Se prepararon los documentos y materiales, para la difusión que comenzó la segunda semana de noviembre para los estudiantes. Y en enero de 2010 al plantel docente. La difusión al Centro de Educación Especial se la realizó a dirección general y académica, debido a la dificultad de los horarios de los profesores del centro de Educación especial, el taller de capacitación programado se lo efectuará a principios de Julio durante las vacaciones de invierno
1.2 Crear un Equipo de Apoyo	Elaboración y entrega de invitaciones. Creación de un equipo	Los docentes Wilder Araos, Jaime Morales, Edgar Pinto, Maruja Jiménez, y un	La expectativa e interés fueron importantes para consolidar el grupo de apoyo.

	compuesto por docentes y estudiantes, con la finalidad de ampliar la participación en la difusión y concientización sobre las NEE.	grupo de estudiantes conforman el equipo de apoyo.	Ninguna dificultad en la conformación.
1.3 Campaña de concientización y apoyo.	Elaboración de materiales y afiches.	Participación de estudiantes y docentes.	La necesidad por conocer más sobre las NEE.
1.4 Feria Pedagógica Abierta a la comunidad.	Se la realizó de acuerdo a la planificación	Los resultados de su implementación fueron excelentes	La participación e interés de la comunidad en los temas presentados en la Feria.(La provincia Punata y los alrededores presentan un alto índice de personas con discapacidad)
1.4.1. Preparación de los estudiantes para participar.	Estudiantes motivados..	Resultados satisfactorios en la realización del evento..	Ninguna dificultad.
1.4.2 Invitación publica a las autoridades y comunidades aledañas.	Se esperaba la presencia de los alcaldes de Punata San Benito y Paracaya.	Asistieron al evento 2 concejales de la provincia Punata y uno de Paracaya, El evento conto con la asistencia masiva de la comunidad de	Dificultad en la asistencia de autoridades por encontrarse en campaña electoral.

		Punata.	
◆ **Actividad 2 CAPACITAR Y FORMAR DOCENTES PARA EL TRABAJO EN NEE**			
Sub-actividad	**Planificación original**	**Implementación**	**Nota**
2.1 Creación de una red de apoyo (dirección académica, docentes , estudiantes, y otros especialistas)	Crear un equipo multidisciplinario. Invitación a autoridades docentes y especialistas.	Resultados satisfactorios por la disposición de los profesionales a participar del equipo.	La Directora del Centro de Rehabilitación CREVA y cuatro docentes dela escuela de Formación Docente, un psicólogo y un doctor conforman el primer equipo de apoyo.
2.1. Puesta en común de las propuestas por parte de los equipos de cada curso: dirección, técnicos y profesionales de la institución.	De acuerdo a la planificación original	Implementación inconclusa, quedando pendiente la socialización en conjunto.	Dificultad para coincidir en los horarios y realizar la presentación de conclusiones de todo el equipo.
2.3 Elaboración de un rol de actividades para una gestión.	Se realizó el rol de actividades para la gestión 2010 y primer semestre del 2011..	Se elaboró de acuerdo a la planificación.	Dificultades para ajustar las actividades de la Escuela de Formación Docente con las actividades planificadas para llevar adelante el

			plan de acción.
2.4 Formalizar la alianza con la escuela de Educación especial, para mejorar la escuela y a futuro masificar la experiencia en otras escuelas.	Se efectuó de acuerdo a lo planificado	Al finalizar la gestión 2010 se dio un pre-acuerdo con el centro de Educación especial. Los estudiantes de la E.S.F.M. finalizaron el semestre con prácticas y voluntariado en el mencionado Centro.	Sin dificultades. Resultados muy satisfactorios para ambas instituciones. Se logró la elaboración de un acuerdo interinstitucional de apoyo mutuo.

2. información

Las actividades contempladas dentro la tercera parte del Plan de acción "Preparación para la apertura de la carrera Educación en NEE.", serán implementadas a partir del segundo semestre de la gestión 2010.

3. Autoevaluación

Fortalezas de su Plan de Acción	[redacted]
• Motivación en estudiantes y docentes. • Docentes y estudiantes creativos.. • Excelente predisponían de la directora del centro de rehabilitación CREVA para realizar trabajos conjuntos.	• Cambio de autoridades en la Escuela de Formacion docente. • Situación impredecible debido al cambio de autoridades a nivel ministerial que afectaron principalmente los primeros meses de la presente gestión. • Cambio en el Vice ministerio de Educación Especial y Alternativa. Las nuevas autoridades desconocen los adelantos realizados por la E.S. F.D.-M.AV. en cuanto a la Solicitud De Creación de la Carrera de Educación Especial.

4. Plan Futuro

Continuar con la implementación del plan de Acción. Durante el receso pedagógico están fijados los talleres de capacitación y las Jornadas de debate, Así mismo el equipo de apoyo y el equipo multidisciplinario tendrán reuniones mas seguidas a partir de julio de 2010.

Firma

Certifico que lo señalado corresponde a una descripción correcta y completa de lo mejor de mis conocimientos.

Nombre del Participante	Fecha	Firma del Participante
DELIA ANA ROCHA HURTADO	24 –V- 2010	

最終報告書

南米地域　特別支援教育

2010 年 5 月

「南米地域　特別支援教育」
研修コースグループ
最終報告書

１．　報告書タイトル：「特別支援教育」
２．　締切日：2010 年 5 月 24 日
３．　国名：ボリビア
４．　研修員名：デリア・アナ・ロチャ・ウルタード
５．　アクションプランの提案：
パラカヤ村 **E.S.F.M. Dr.M.A.V. (**「マヌエル・アセンシオ・ヴィリャロエル」高等教員養成機関**)**の教員養成能力向上、支援。

実施の成果

◆ 活動 1　特別支援教育の専門性を高めるためコミュニティーのモチベーションを高める。			
活動	**原案**	**実施**	**備考**
1.1　日本で得た経験の普及、討論。	原案に沿って実施された。	日本から帰国後実施された。特に学生に関して非常に満足のゆく成果を得た。	他文化を知りたいとモチベーション、期待を持つことがこの活動を達成するために重要であった。 学校の年度末を閉めるための活動がたくさんあって、経験の普及に関して教員全員を集めることも困難であった。
1.1.1 当局との会談、報告書の手交。	予定に準ずる。	日本からの帰国時。	問題なし。

1.1.2 学生、教員、特別支援教育センターに経験を普及するための書類、資料の準備。	学生、教員、特別支援教育センターCREVA（ヴァリェ・アルトリハビリテーションセンター）に対する普及を計画。	マヌエル・アセンシオ・ヴィリャロエル高等教員養成機関の学生、教員全員に向け普及活動を実施した。特別支援教育センターに対する普及は、管理職を対象に実施し、教員とのワークショップは、今後に待つ。	学生対象に11月の第2週に始めた普及用の書類、資料を準備。2010年1月には、教員対象。特別支援教育センター対象の普及は特別支援教育センターの教員の時間繰りの困難から、幹部管理職、学校教育部のみに対して実施された。予定されていた研修ワークショップは、7月初め、冬休みの間に実施予定。
1.2 支援チームの創設。	招待状作成、発送。 特別支援の普及と啓発への参加拡大を目的とする、教員と学生で構成されたチームの創設。	教員ウイルデル・アラオス、ハイメ・モラレス、エドガル・ピント、マルハ・ヒメネスと学生のグループで支援チームを構成。	支援グループを強化するには、期待と関心が重要であった。 構成には何ら問題なし。
1.3　啓発、支援運動	資料、ポスター作製。	学生、教員の参加。	特別支援についてさらに知る必要性。
1.4 地域に開かれた教育フェア	計画に基づいて実施。	実施の成果は素晴らしかった。	フェアで紹介されたテーマに地域の参加と関心。（プナタ県とその周辺は障害者指数が高い。）
1.4.1 学生の参加に向けての準備。	意欲ある学生。	イベント実現に満足のゆく結果。	問題なし。
1.4.2　当局と村のコミュニティーを公	プナタ、サン・ベニト、	プンタ県の市議会議員2名、パラ	選挙運動のため、当局の出席が困難。

的に招待。	パラカヤの知事の出席が期待されていた。	カヤから 1 名がイベントに出席。イベントは、プナタのコミュニティーが大勢参加した。	
◆ 活動 2　特別支援教育の仕事のために教員の研修と養成を行う。			
活動	**原案**	**実施**	**備考**
2.1　支援ネットワーク形成（学校教育部、教員、学生、その他専門家）	学際的チームの創設。管理職、教員、専門家を招待。	チームに参加する専門職を得て満足のいく結果。	リハビリテーションセンターCREVA の所長と教員養成学校の 4 人の教員、心理学者一人、医師一人が最初の支援チームを構成する。
2.2　各コースのチームによる提案を共有する。:機関の管理部、技術者、専門職。	原案に沿って。	集団での啓発が懸案事項で、実施は未完。	時間を繰り合わせて、チーム全体の結果のプレゼンテーションを実施するのが困難。
2.3 年間活動の役割の作成。	2010 年、2011 年前半の活動の役割を実施する。	計画に基づいて作成した。	教員養成機関の活動と計画された活動を調整してアクション・プランを実施することが困難。
2.4 学校改善のため特別教育の学校との連帯を具体化し、将来経験を他の学校で大衆化する。	予定通り実施された。	2010 年期が終わると特別教育センターと事前協定が結ばれる。E.S.F.M. の学生は前述のセンターで、実習とボランティアで学期を終わる。	問題なし。両機関にとって、非常に満足な結果。相互支援の機関間協定作成に至った。

2. 情報

アクションプラン「特別支援教育課程開設の準備」の第三部で考察した活動は、2010 年後半から実施される。

3. 自己評価

アクションプランの強み	アクションプランの弱み
● 学生、教員のモチベーション ● 創造的教員、学生 ● 共同作業実施のためCREVAリハビリテーションセンター所長の素晴らしい影響力。	● 教員養成機関の管理職の交代。 ● 省レベルの管理職の交代による予測できない状況が、主に今学年度の初めの数カ月に影響した。 ● 特別・オルタナティブ教育次官局における交代。新しい当局は特別教育課程創設の申請に関してマヌエル・アセンシオ・ヴィリャロエル高等教員養成学校が行った進捗を知らない。

4. 今後の計画

アクションプラン実施を継続する。学校の休業中の研修ワークショップ、討論の会議が固定された。又、支援チーム、学際的チームも 2010 年 7 月以降、さらに頻繁に会合を重ねることとなる。

署名

記載事項が、私の知識の最善の事実を、真正、完璧に記載したものに相違ないことを証明します。

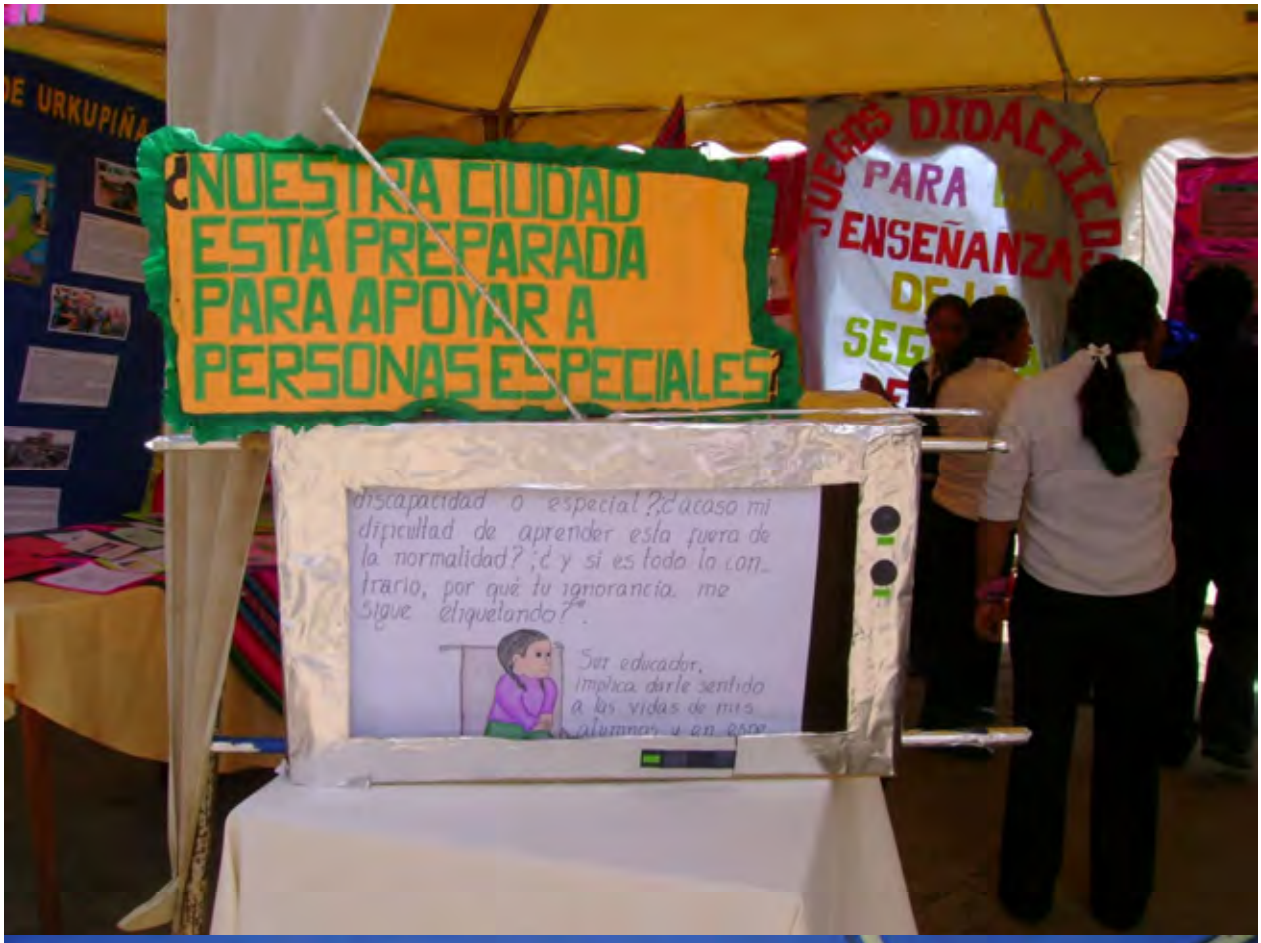
研修員名	日付	研修員の署名
デリア・アナ・ロチャ・ウルタード	2010 年 5 月 31 日	

付録

教育フェア実施の写真

ABRE TU
CORAZON
LO QUE

DEFICIENCIAS SENSORIALES
VISUALES
MÉTODO BRAILLE


¿NUESTRA CIUDAD
ESTÁ PREPARADA
PARA APOYAR A
PERSONAS ESPECIALES
JUEGOS DIDACTICOS
PARA LA
ENSEÑANZA
DE LA
SEG
discapacidad o especial?¿acaso mi
dificultad de aprender esta fuera de
la normalidad?,¿y si es todo lo con-
trario, por qué tu ignorancia me
sigue etiquetando?".
Ser educador,
implica darle sentido
a las vidas de mis

AYUDAR A LOS
NIÑOS CON N.E.
ES ILUMINARLES
LA VIDA.
COMPLETANDO EL
DIBUJO

MATERIALES DIDACTICOS
PARA NIÑOS CON N.E.E.

¿TIENE SU NIÑO ESPECIAL EN CASA
Y NO SABES QUE HACER COMO
PADRE?

リハビリテーションセンターCREVA 所長と駐ボリビア日本大使

「ヌエストラ・セニョーラ・デ・グアダルーペ」ヴァリェ・アルト自立センター教職員